

ワンヘルスについて（第2弾）

東広島家畜診療所
令和6年3月14日（木）

平野 政敏

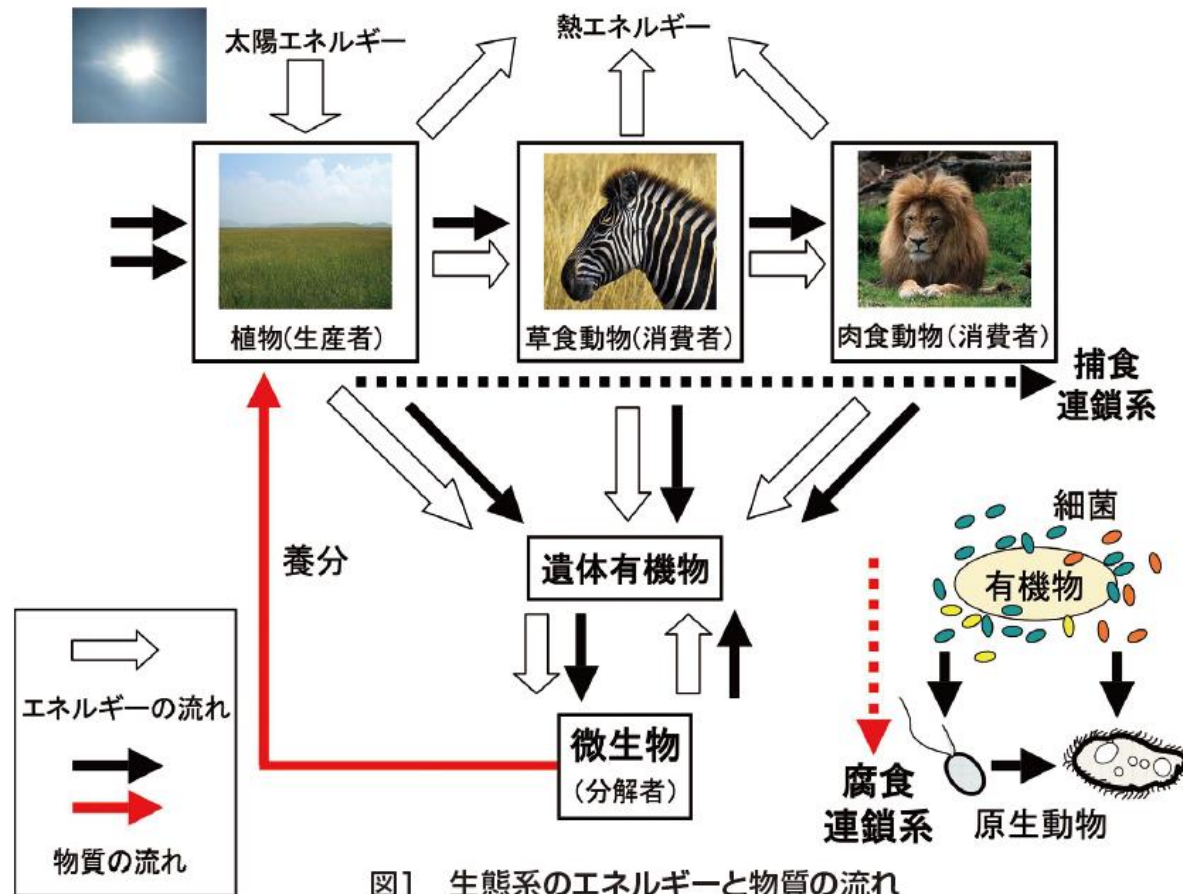
ワンヘルスとは？



人と動物の健康と環境の健全性は、生態系の中で相互に密接につながり、強く影響しあっている。

これらの健全な状態を一体的に守らなければならない、これが「ワンヘルス」の理念です。

生態系のエネルギーと物質の流れ



人も動物も環境も微生物と一緒に生きている。

- 環境のバランスは微生物によって保たれています。
- 細菌・菌類・ウイルスなどの微生物は、地球のあらゆるところに存在。微生物は動物の死骸や糞、枯れ葉などを分解し、土に還って動植物の栄養分になる。地球の環境は微生物が動植物の命の循環を巡ることでバランスが保たれている。
- 人の体には、約 1 0 0 兆個の微生物が常在し、この微生物は体内に入ってきた病原体（細菌・ウイルス・寄生虫等）に抵抗して、発症を防ぐ働きがあります。また、腸内環境を整える善玉菌（乳酸菌・ビフィズス菌等）は、下痢や腹痛を起こす悪玉菌の増加を抑えます。
- さらに、汚染された土壌や水等を浄化、生ごみの分解等環境のために役立っています。

人も動物も環境も微生物と一緒に生きている。

- 微生物には病原体や薬剤耐性菌も！
- 一方、人や動物の健康を妨げる微生物もあります。これらは、感染症を引き起こす恐れがあります。細菌による感染症は、抗生物質が使われますが、薬の不適切な使用により、薬剤耐性菌が生き残ることがあります。
- 不適切な抗菌薬の使用により、生じた薬剤耐性菌は、畜産物や水産物を通じて人に拡散する恐れがあります。

人の常在菌

- 皮膚の清潔さが保たれる。
- 腸内細菌が注目されている。（タンパク質やビタミンを合成し、消化を助ける。病原菌の増殖を阻止、免疫力の強化にも。）
- 腸内細菌は、バランスが崩れると炎症を起こしたり、発がん物質を活性化させるなど、様々な疾患を引き起こします。

人も動物も環境も微生物と一緒に生きている

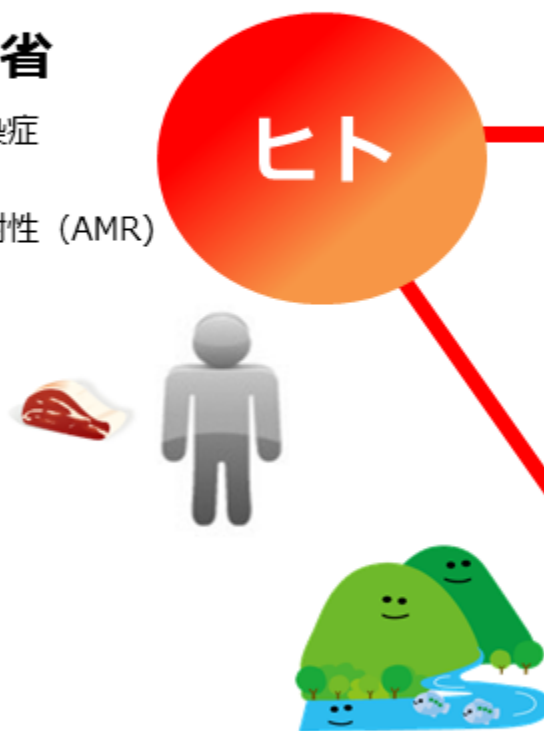


ワンヘルス (One Health)とは？

- ヒトと動物、それを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、ヒトと動物の健康と環境の保全を担う関係者が緊密な協力関係を構築し、分野横断的な課題の解決のために活動しているという考え方。
- 人獣共通感染症対策や薬剤耐性（AMR）対策などでワンヘルス・アプローチが必要。

厚生労働省

- 人獣共通感染症
- 食の安全
- ヒトの薬剤耐性（AMR）



農林水産省

- 家畜の伝染性疾病
- 衛生的な家畜生産
- 動物の薬剤耐性（AMR）



環境省

- 地球温暖化
- 生物多様性
- 抗菌物質分布

【厚生労働省の取り組み】

人獣共通感染症：医師会、獣医師会と連携して毎年シンポジウムを開催

薬剤耐性（AMR）：「ワンヘルス動向調査報告書」を毎年公表

ワンヘルスとは？



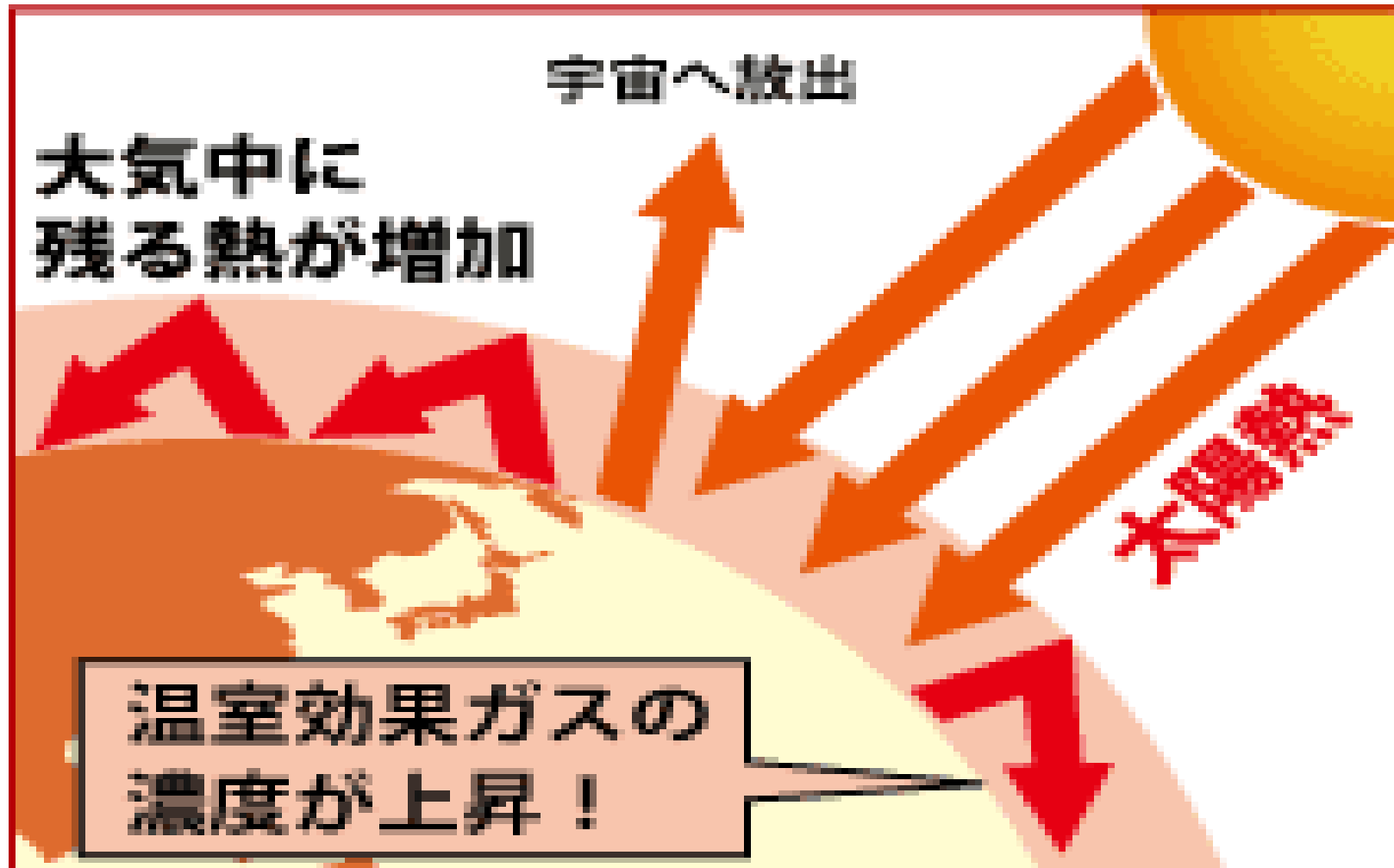
人と動物の健康と環境の健全性は、生態系の中で相互に密接につながり、強く影響しあっている。

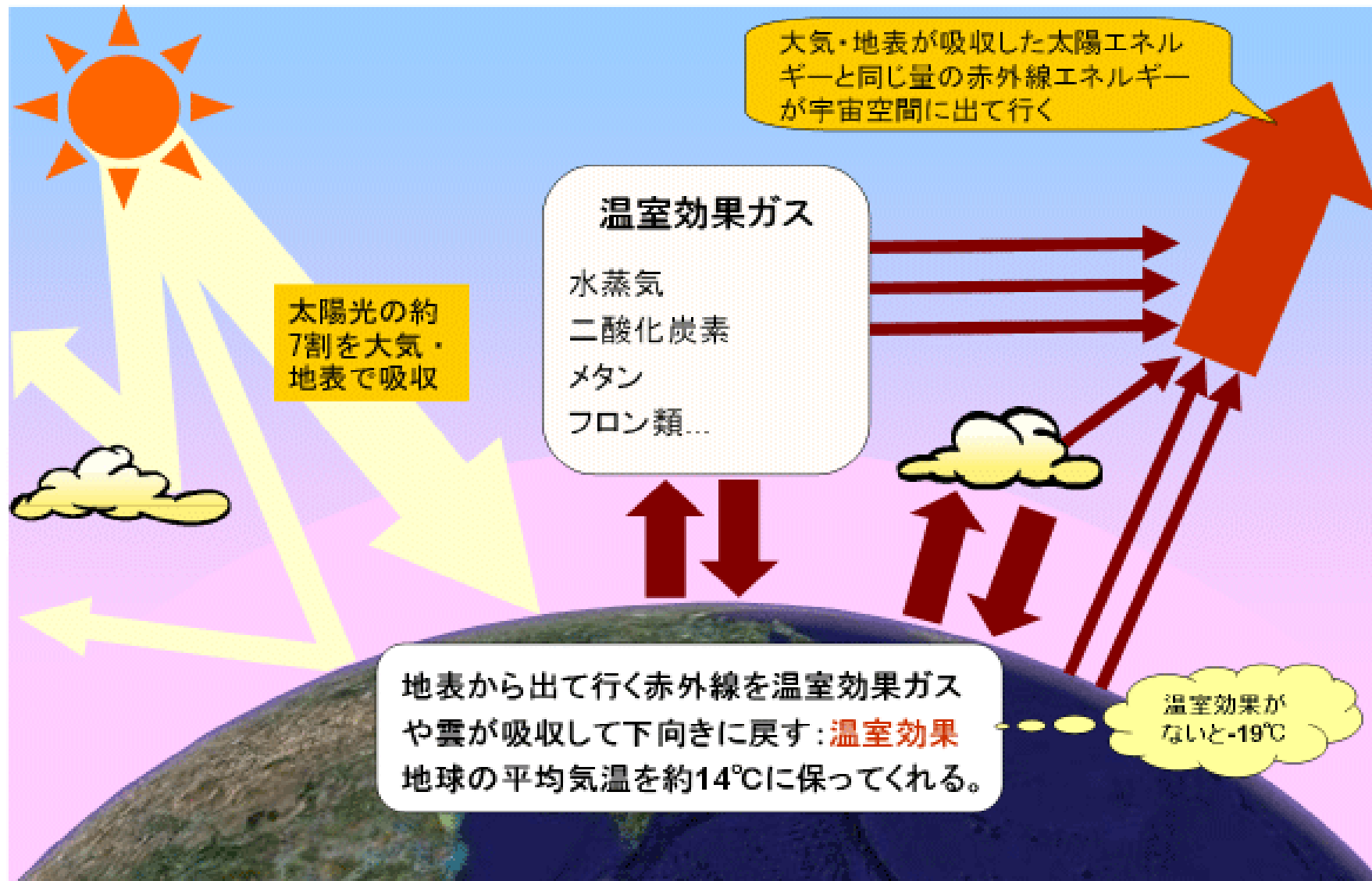
これらの健全な状態を一体的に守らなければならない、これが「ワンヘルス」の理念です。

世界の平均気温2月も最高に！（一週間前）

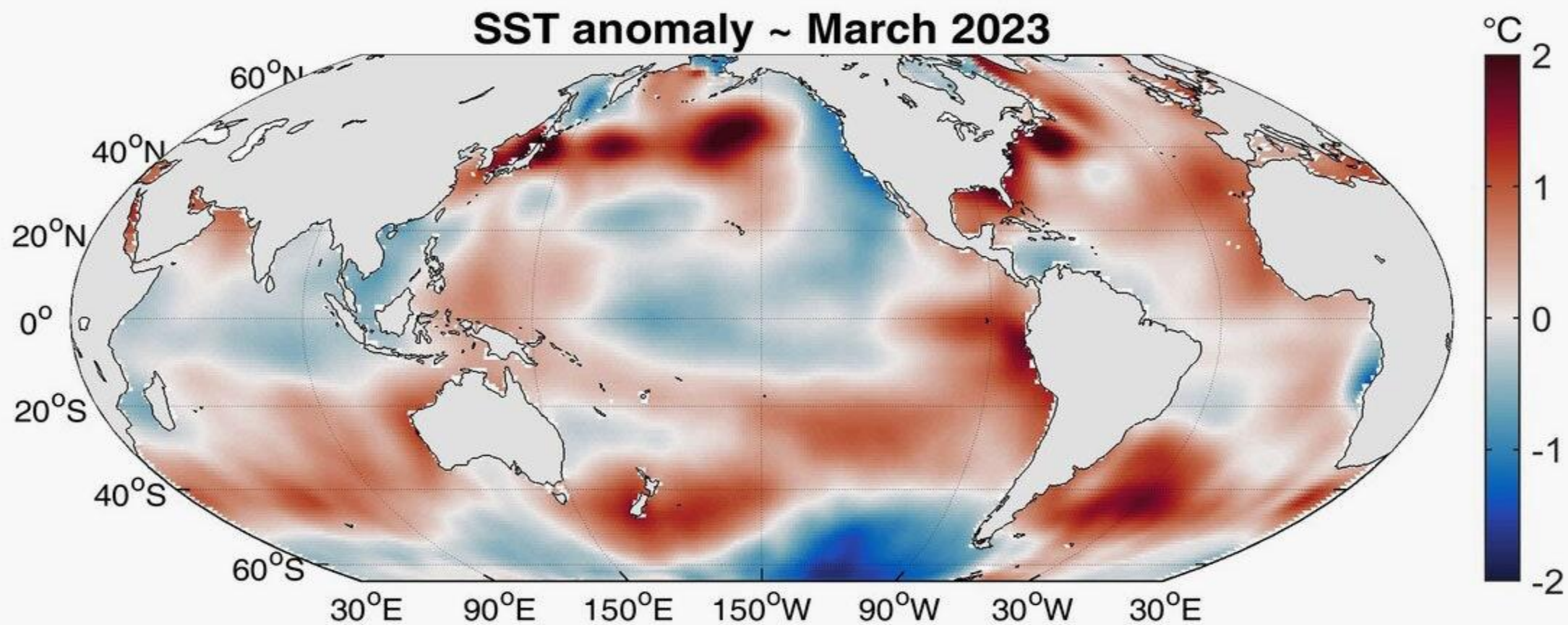
- 欧州連合（EU）の気象情報機関「コペルニクス気候変動サービス」は、2月7日、今年2月の世界平均気温が13.54度で、同月として、1940年からの観測史上最高だったと発表。
- 1850年～1900年の2月の推定平均気温より、1.77度高かった。
- 地球温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」では、世界の平均気温の上昇幅を1.5度に収めることが目標だが、達成は危機的な状況である。
- スイスでは、雪不足のため、スキー場が閉鎖。

温室効果ガス（温暖化）



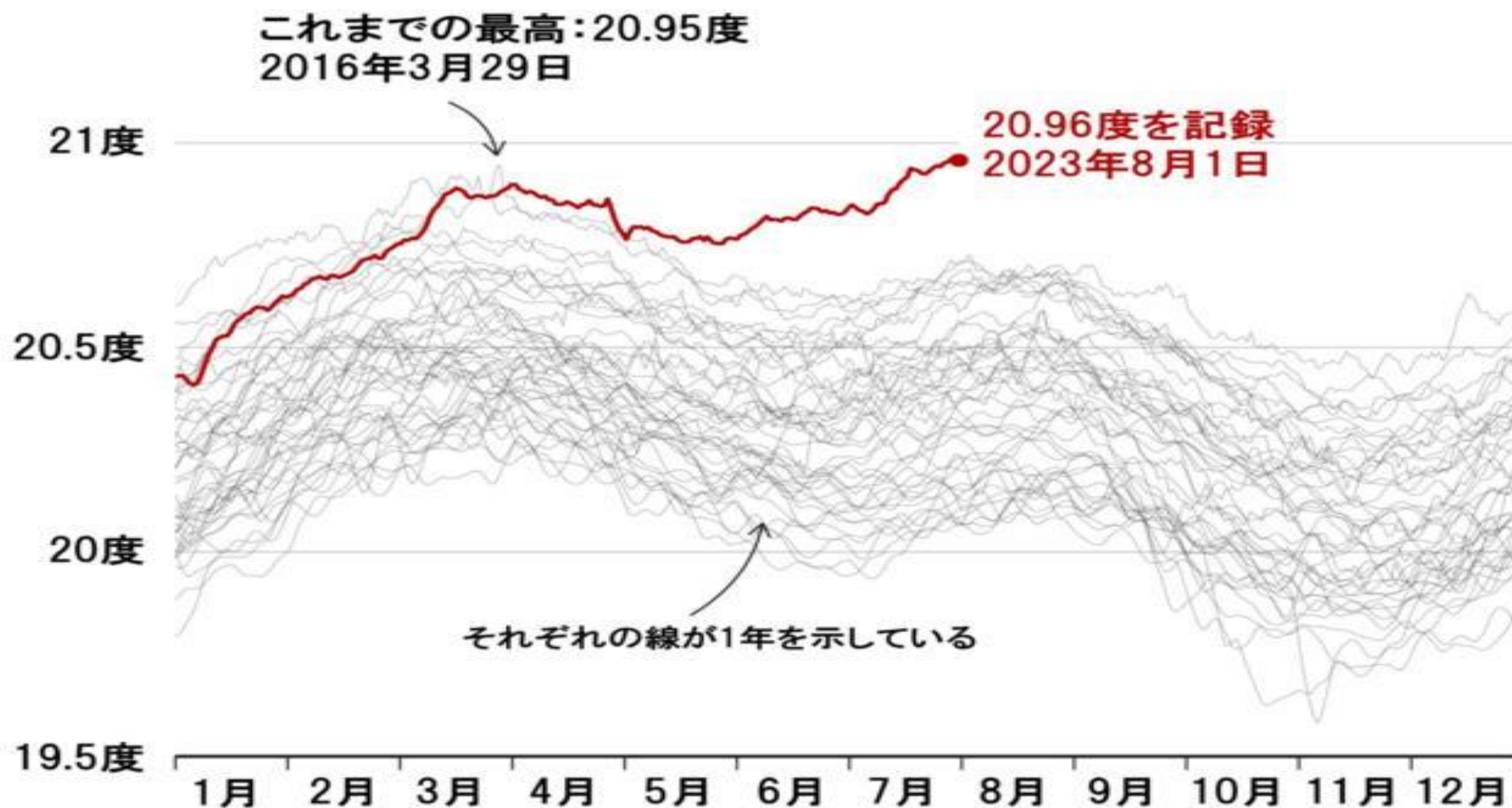


海水温



海水温が観測史上最高を更新

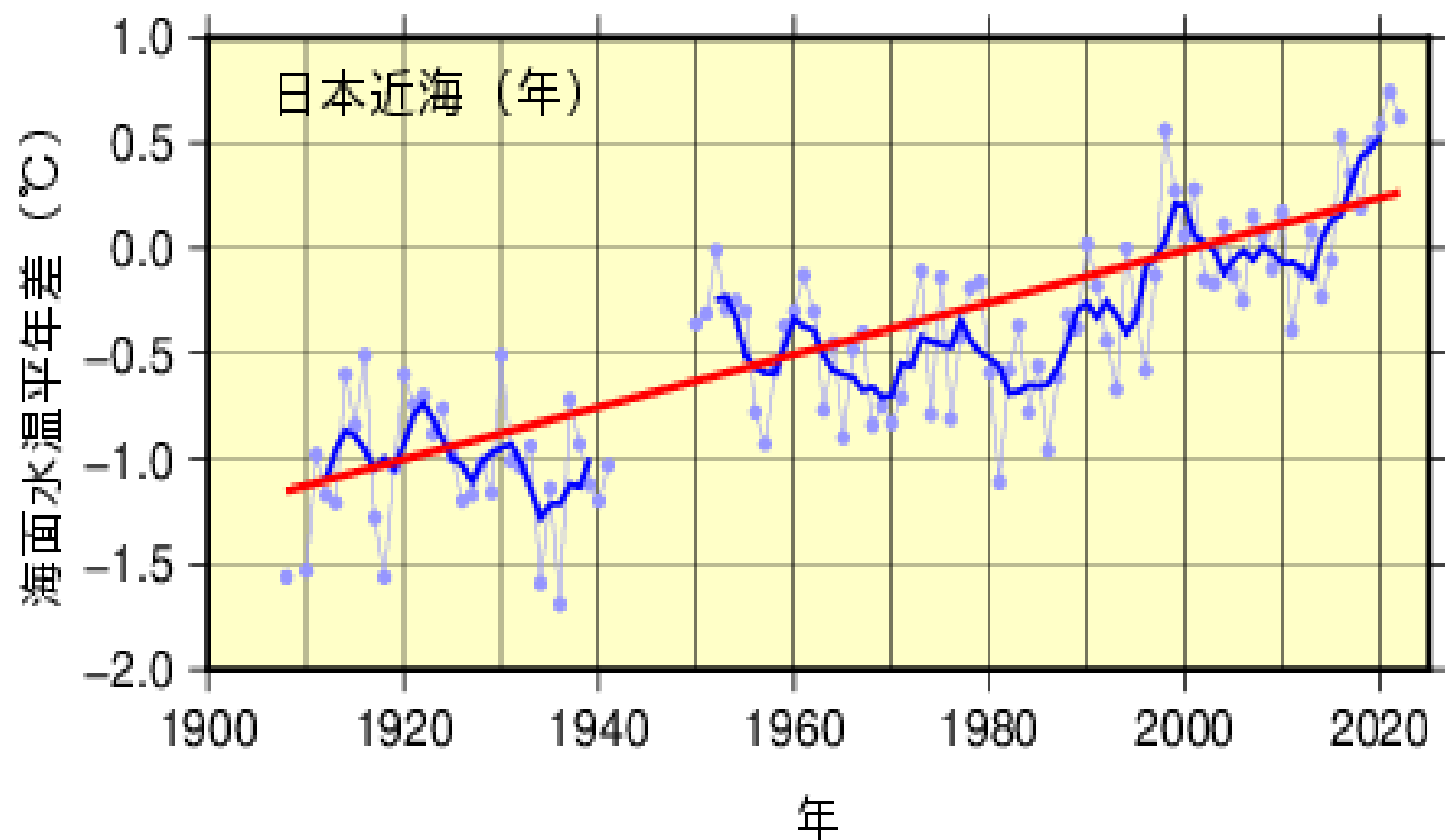
北緯60度から南緯60度の海面の平均温度の推移(1979～2023年)



出典:欧州連合コペルニクス気候変動サービス、欧州中期予報センター

BBC

日本近海の海面水温



森林火災



木の伐採





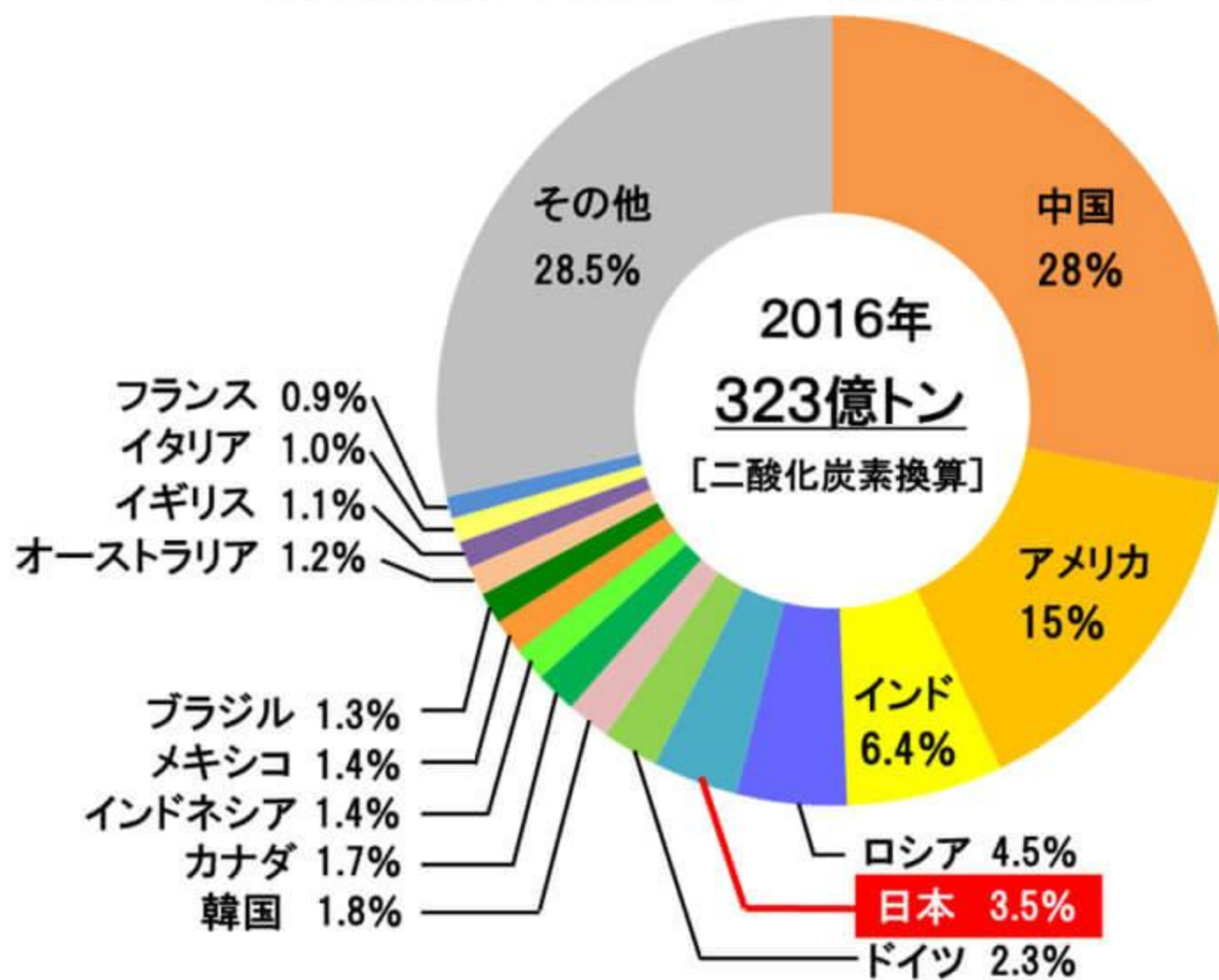


▼ 世界の石油・石炭などからの二酸化炭素排出量の推移

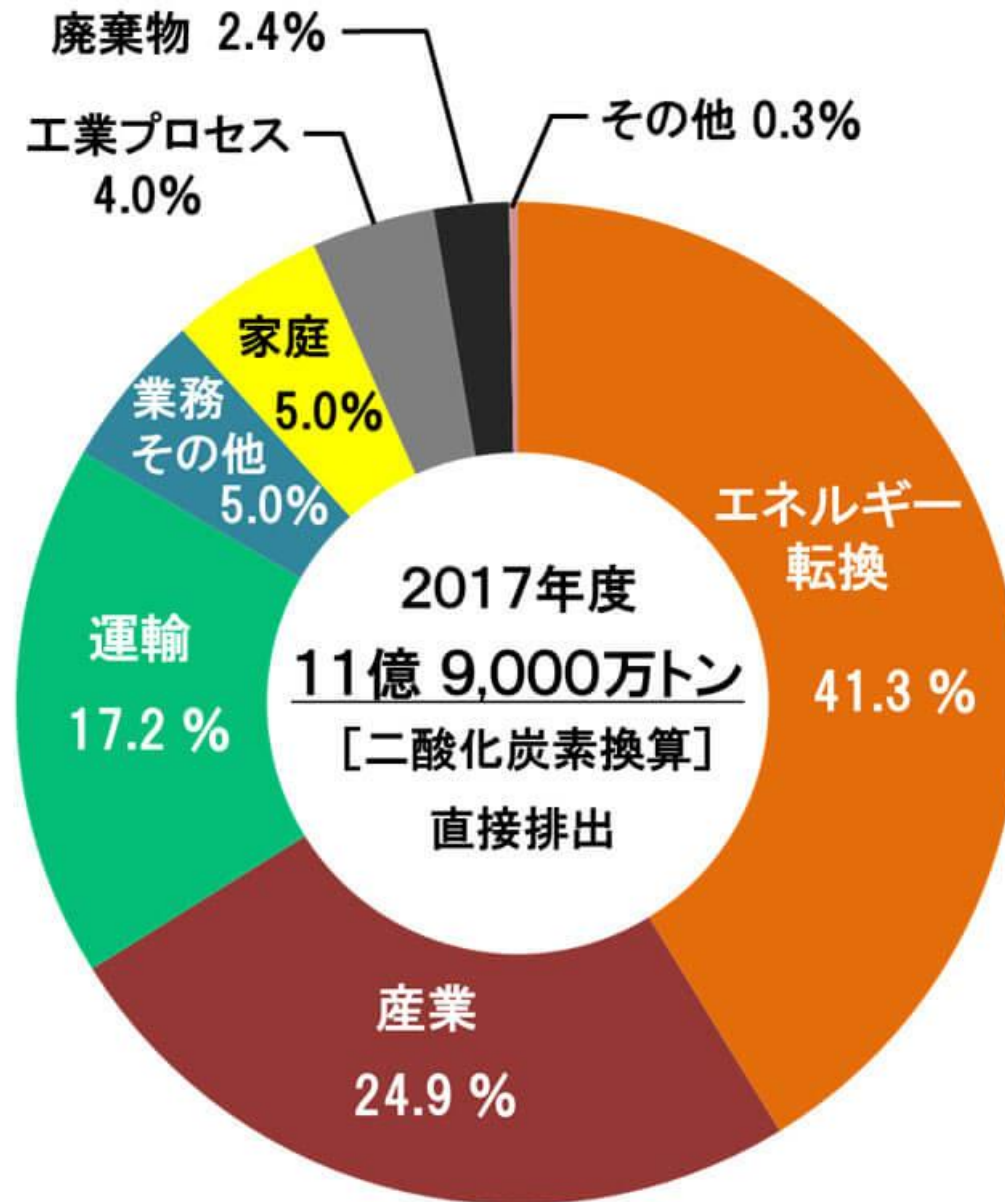


▼ 世界の二酸化炭素排出量

[出典:JCCCA(元データはEDMC/エネルギー・経済統計要覧2019年版)]



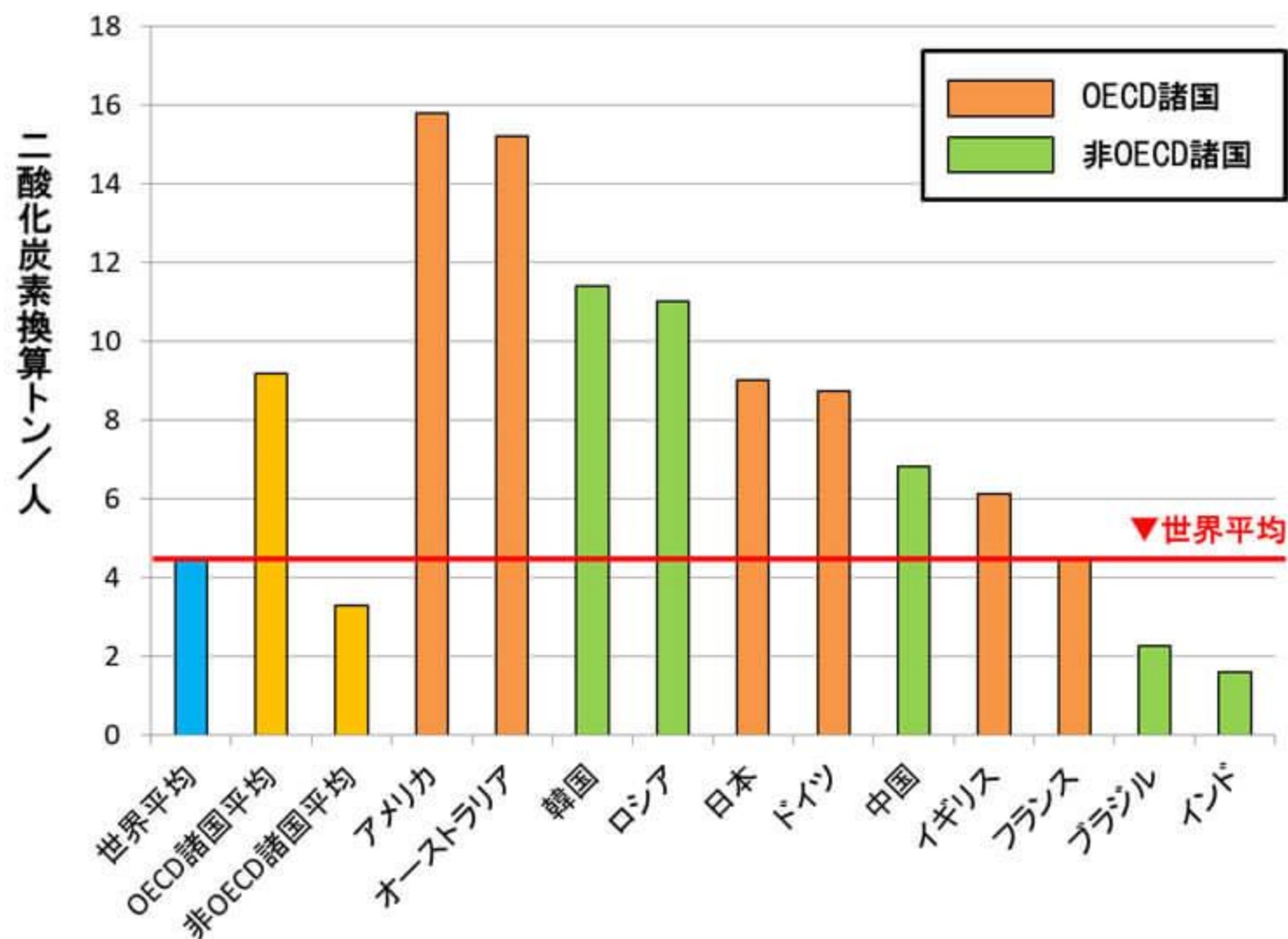
▼日本の二酸化炭素排出の分野別割合



出典： 温室効果ガスインベントリオフィス

▼代表国における国民一人当たりの二酸化炭素排出量

[出典: EMDC エネルギー・経済統計要覧2018]

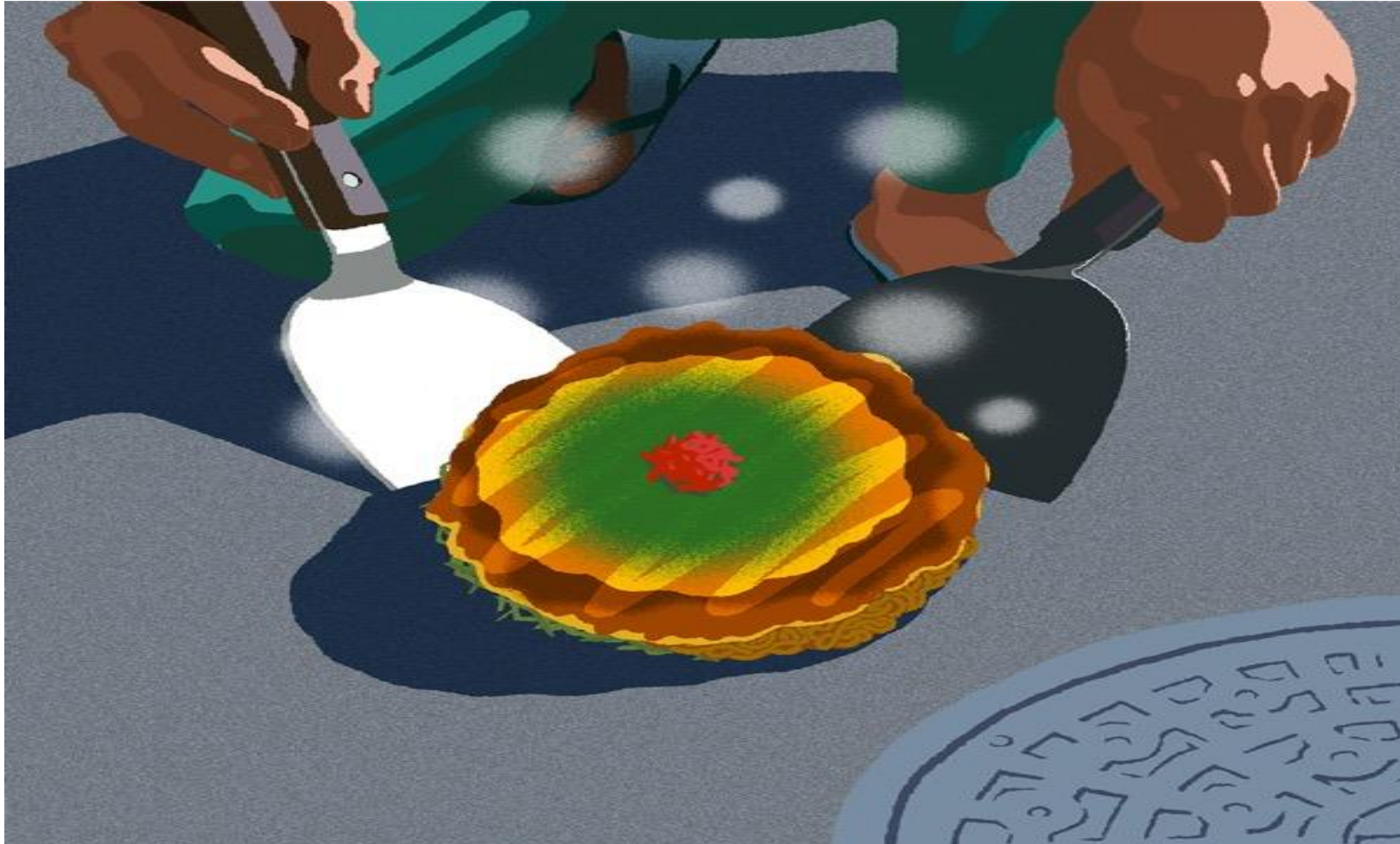


サンゴの破壊





アスハルトの温度で好み焼き



今なぜ、ワンヘルスが必要か？

- プラネタリークライシス

地球規模での、環境危機を説明するために、国連システムにより、採用されたシステム。

- 環境破壊（汚染）、気候危機（気候変動）、生物多様性の喪失（生態学的な危機）3つの危機は、相互に関連し、環境リスクと世界的な経済損失を増大させる。
- COVID-19 のパンデミックも一因。

ワンヘルスの構成

- 6項目からなっている

1. 人と動物の共通感染症対策

手洗い、咳エチケット、口腔ケアによる感染症予防、ペットの衛生管理、予防接種、ダニ対策

2. 薬剤耐性菌対策

用法用量を守った薬の服用、薬を飲み切る、あげない、のこさない

3. 環境保護

自家用車の使用を控える、排気ガスの削減、節電・省エネに取り組む、ゴミのポイ捨て禁止

4. 人と動物の共生社会づくり

ペットの予防接種や健康診断、マイクロチップの活用、野生動物への餌付け禁止

5. 健康づくり

ハイキング等で自然との触れ合い、森林浴、動物園・水族館に出かける

6. 環境と人と動物のより良い関係づくり

東広島産の食べ物を積極的に食べる、食品のロスの削減

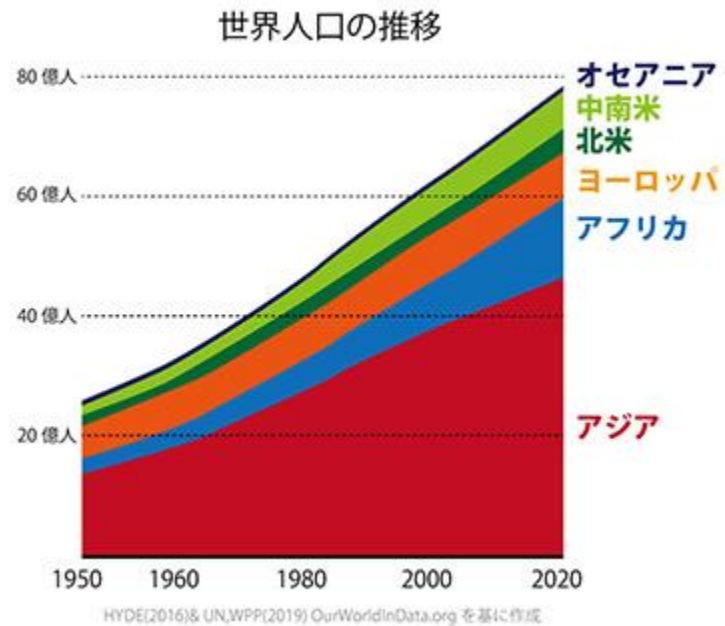
1. 人と動物の共通感染症対策

- 人に感染する病原体は、1, 400種以上。
- 病原体を保有する動物から人へ、人から動物にうつる病気を「人と動物の共通感染症」という。
- その中には、新型コロナウイルス感染症、新型インフルエンザ、牛海綿状脳症（BSE）、鳥インフルエンザ、エボラ出血熱等たくさんあります。
- これらの感染を防ぐには、（感染症の予防の基本）
 - ①**感染源**：病原体を保有している動物等
 - ②**感受性者**：感染の恐れのある人
 - ③**感染経路**：飛沫や接触など感染源から感受性者に至る経路

感染症を取り巻く状況の変化

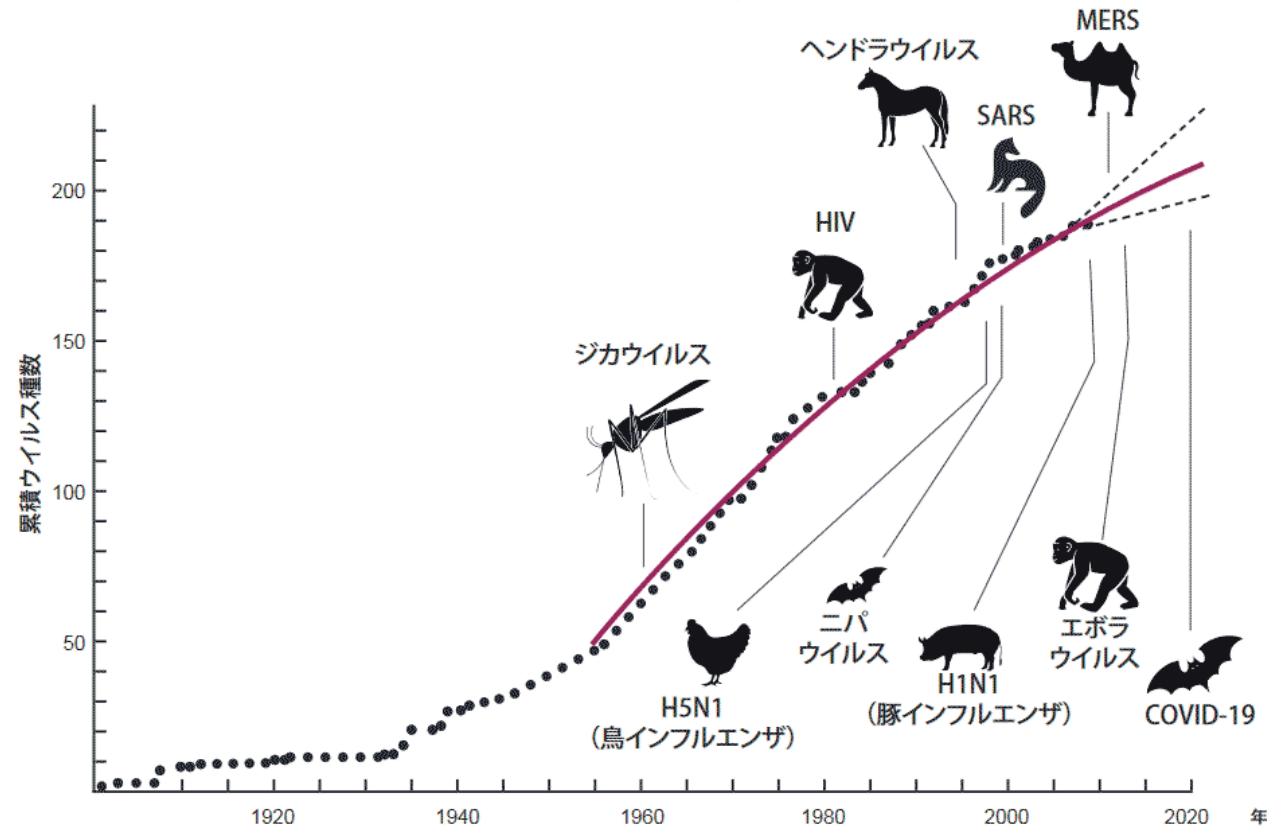
- 人口の増加（アジアを中心に増加）
- 集団的な生活機会の増加（田舎から都市部へ）
- 食習慣、性習慣などの急速な変化（西洋化、梅毒の流行）
- 自然環境の破壊（森林の伐採、森林火災）
- 人の住居地の拡大による人と動物の距離の接近
（感染する機会が増える）
- 交通機関の発達による人と物の大量・短時間の移動
（感染症の流行）

世界の人口推移と人と物の移動



人への感染が確認されているウイルスの累積発見数

人への感染が確認されているウイルスの累積発見数



この20年間で話題となった感染症

- 高病原性鳥インフルエンザA/H5N1
- ニパウイルス
- ウエストナイル熱
- 重症急性呼吸器症候群（SARS）
- 新型インフルエンザ2009
- 重症急性熱性血小板減少症候群（SFTS）
- 中東呼吸器症候群（MERS）
- 低病原性鳥インフルエンザA/HNのヒトの感染
- ポリオ
- エボラ（西アフリカ）
- ジカウイルス感染症
- ペスト（マダガスカル、DRコンゴ、ペルー）
- エボラ（コンゴ）
- COVID 19
- MPOX（サル痘）
- 小児急性肝炎

2. 薬剤耐性菌対策、薬剤の適正使用と管理

- 「薬剤耐性菌」とは抗菌薬（抗生物質等）がききにくくなる。
- 抗菌薬を過剰に、また、不適切に使用すると、抗菌薬が効く菌は消滅し、薬剤耐性菌が生き残ります。
- 抗菌薬過剰使用は、結核やマラリアがあり、薬剤耐性マラリアなど治療が困難な状態です。
- そこで、世界保健機構（WHO）は2015年に薬剤耐性菌対策に取り込む決議（グローバル・アクション・プラン）を採択、加盟国には、アクション・プランを策定するように要請。
- 日本でも、2016年から①普及啓発・教育②動向調査・監視③感染予防・管理④抗微生物剤の適正使用⑤研究開発・創薬⑥国際協力

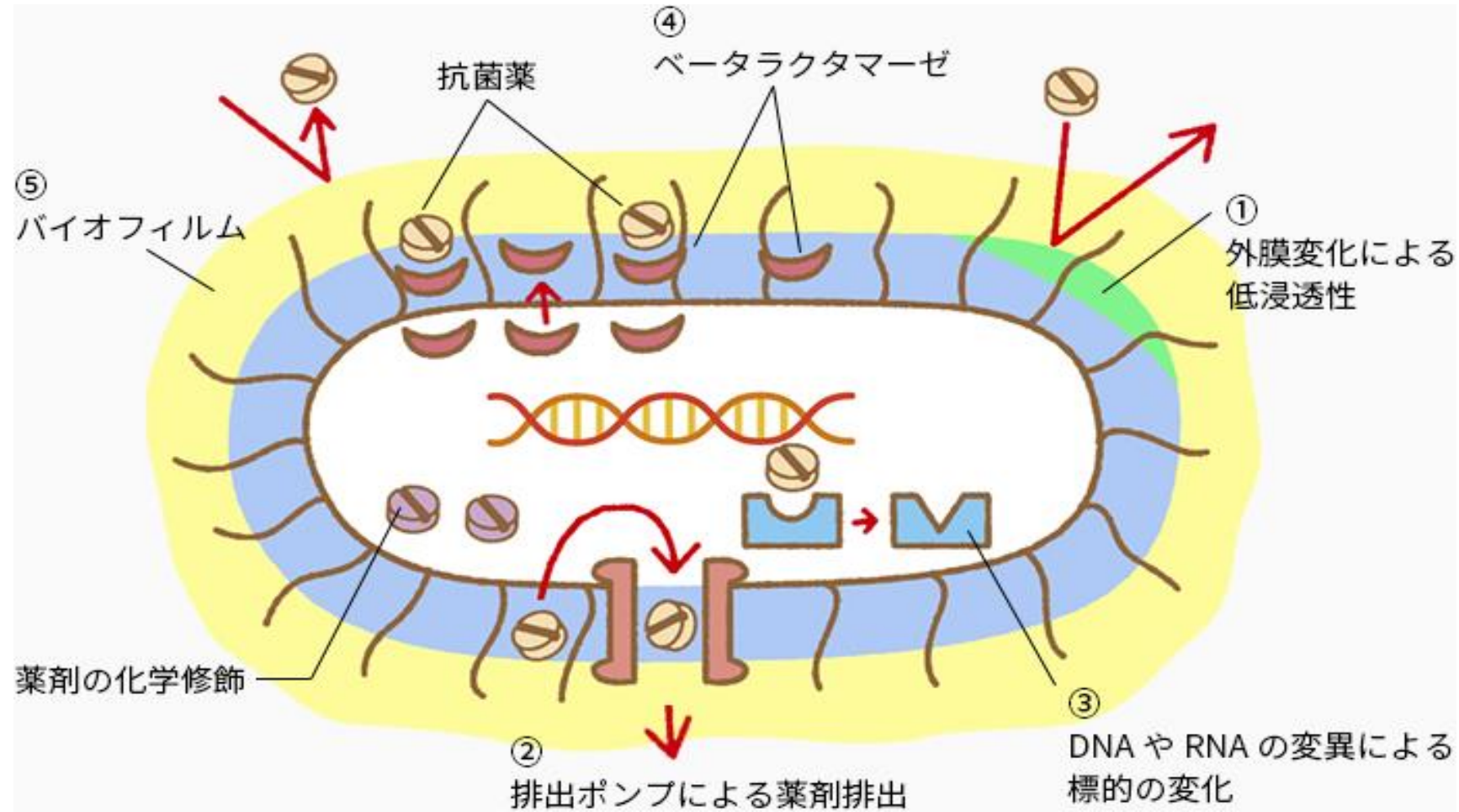
AMR対策待ったなし！

- AMRが広がれば、医療はもちろん社会全体に大きな影響が生じる。
- 2019年4月29日国連は、薬剤耐性菌が世界的に増加し、**危機的な状況**にあるとして、各国に勧告している
- 日本が議長国になった2019年、G20首脳会議や保健大臣会合では、主要議題として、取り上げられた。

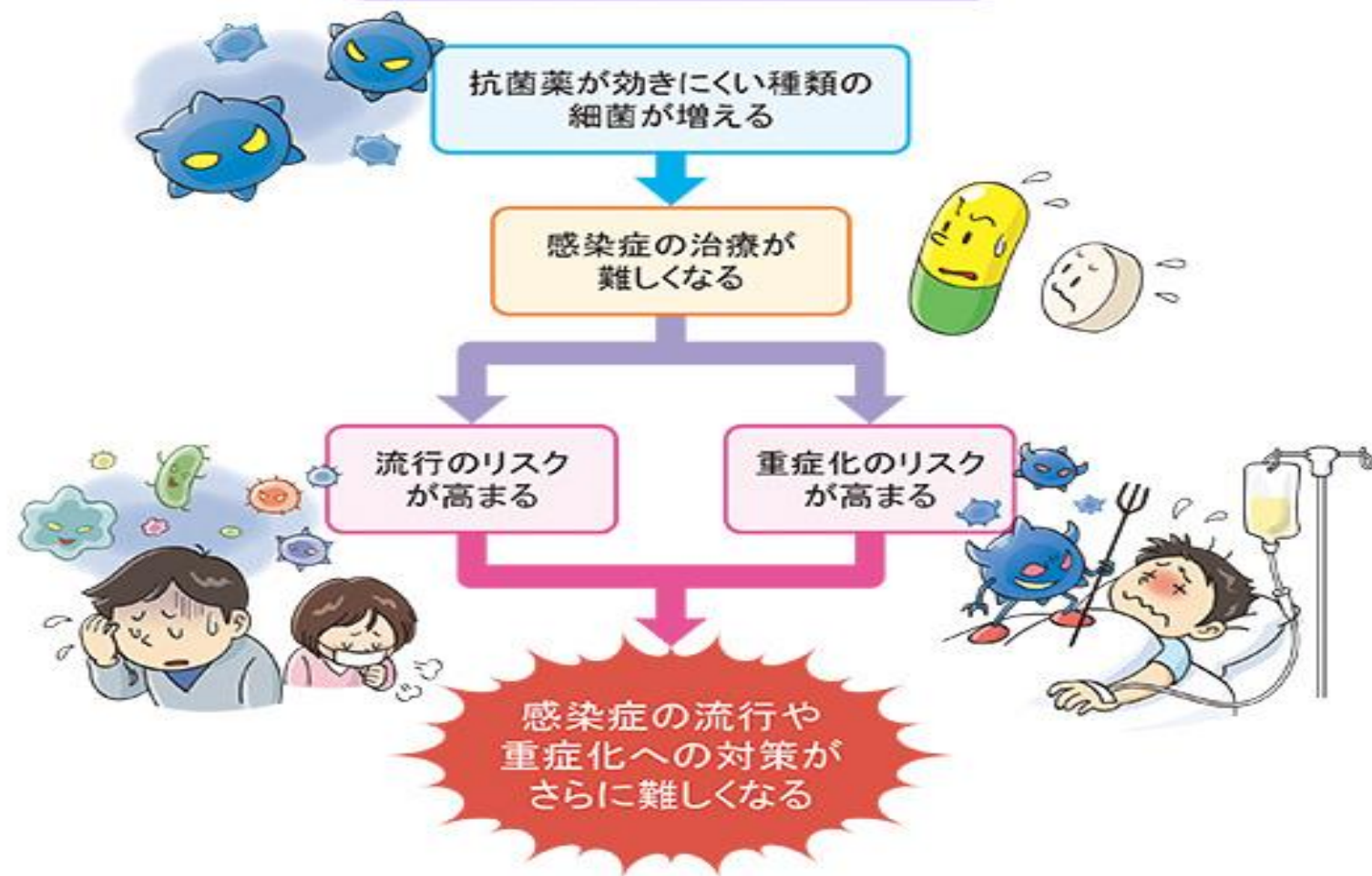
問題の耐性菌

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）
 - バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）
 - フルオロキノロン耐性大腸菌（FQREC）
 - 薬剤耐性グラム陽性球菌
 - 多剤耐性緑膿菌（MDRP）
 - 多剤耐性アシネトバクター（MDRA）
-
- 2019年国内で、MRSAとFQREC推定死亡者、8,000人。

薬剤耐性菌のメカニズム



薬剤耐性の危険性



3. 環境保護

- 近年のグローバル化や大量の食糧生産は、森林や生態系を破壊し、気候変動の一因となっている。
- 地球温暖化は、熱中症、豪雨、台風、山火事の原因。
- 大規模な森林伐採や開発による都市化は、病原体と遭遇する機会が多くなり、新たな感染症の原因になっている。
- このように、環境と人と動物の健康は、密接につながっています。

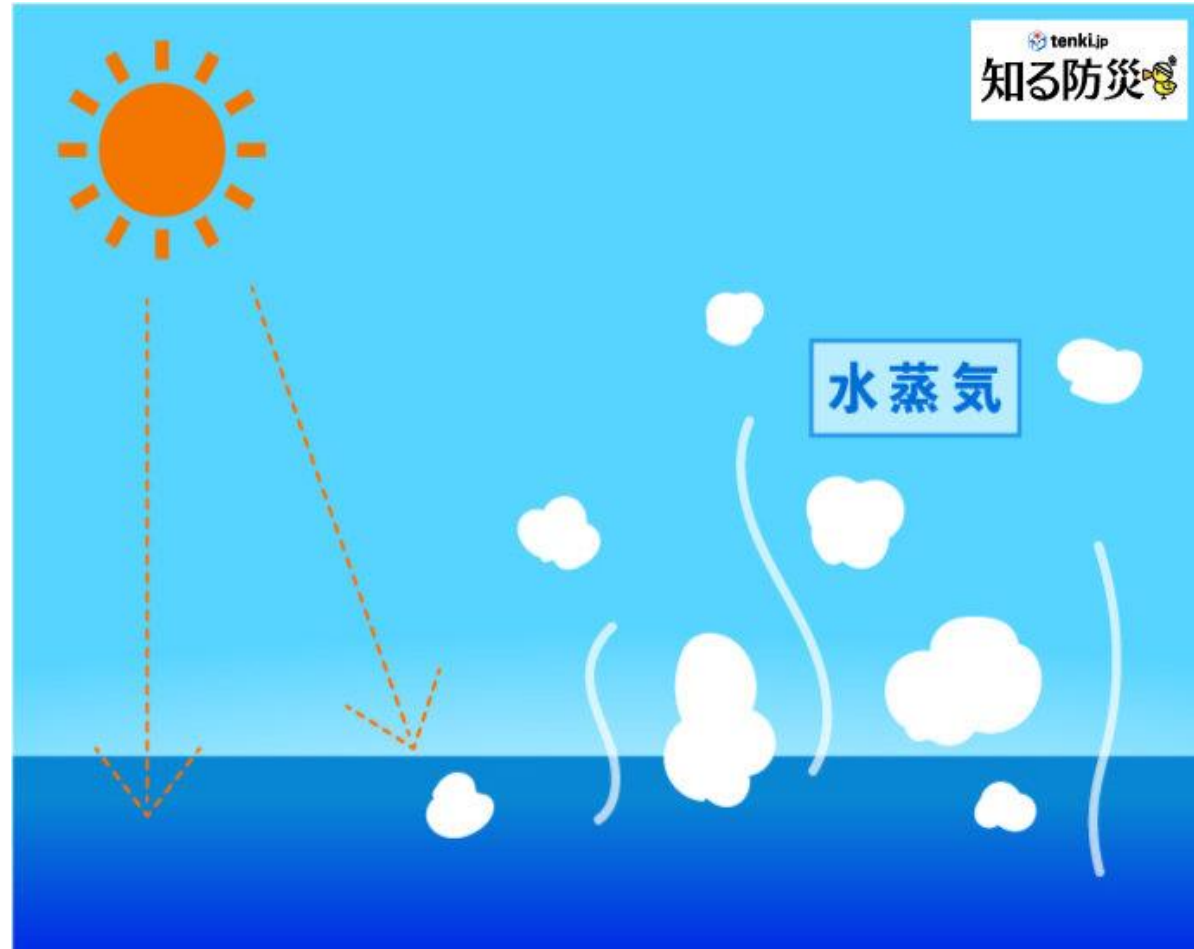
熱中症



熱中症の症状



体風発生原理



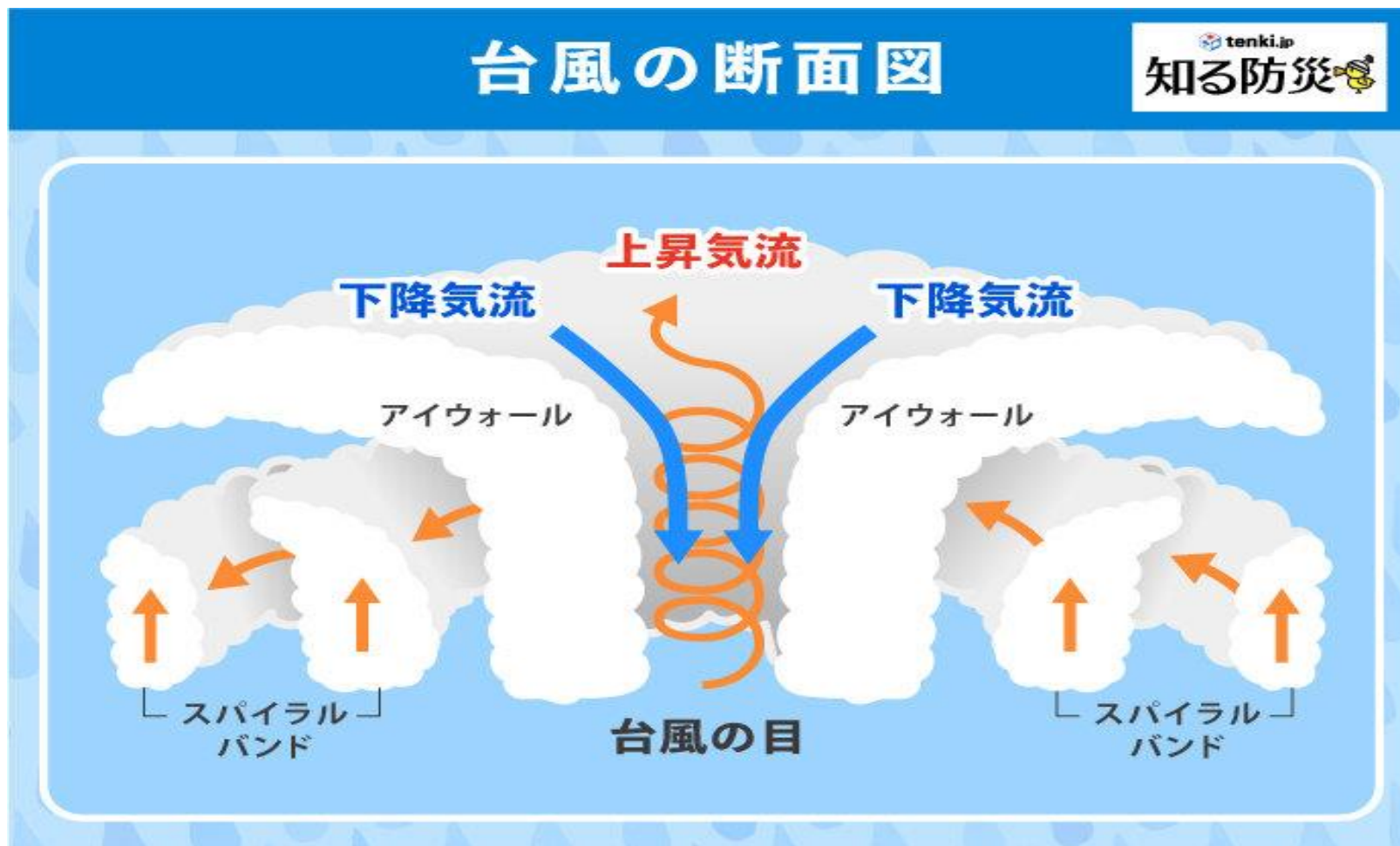
体風の発生原理



体風発生原理



台風発生原理



豪雨災害



台風被害



避難



森林火災



森林火災



二酸化炭素の放出



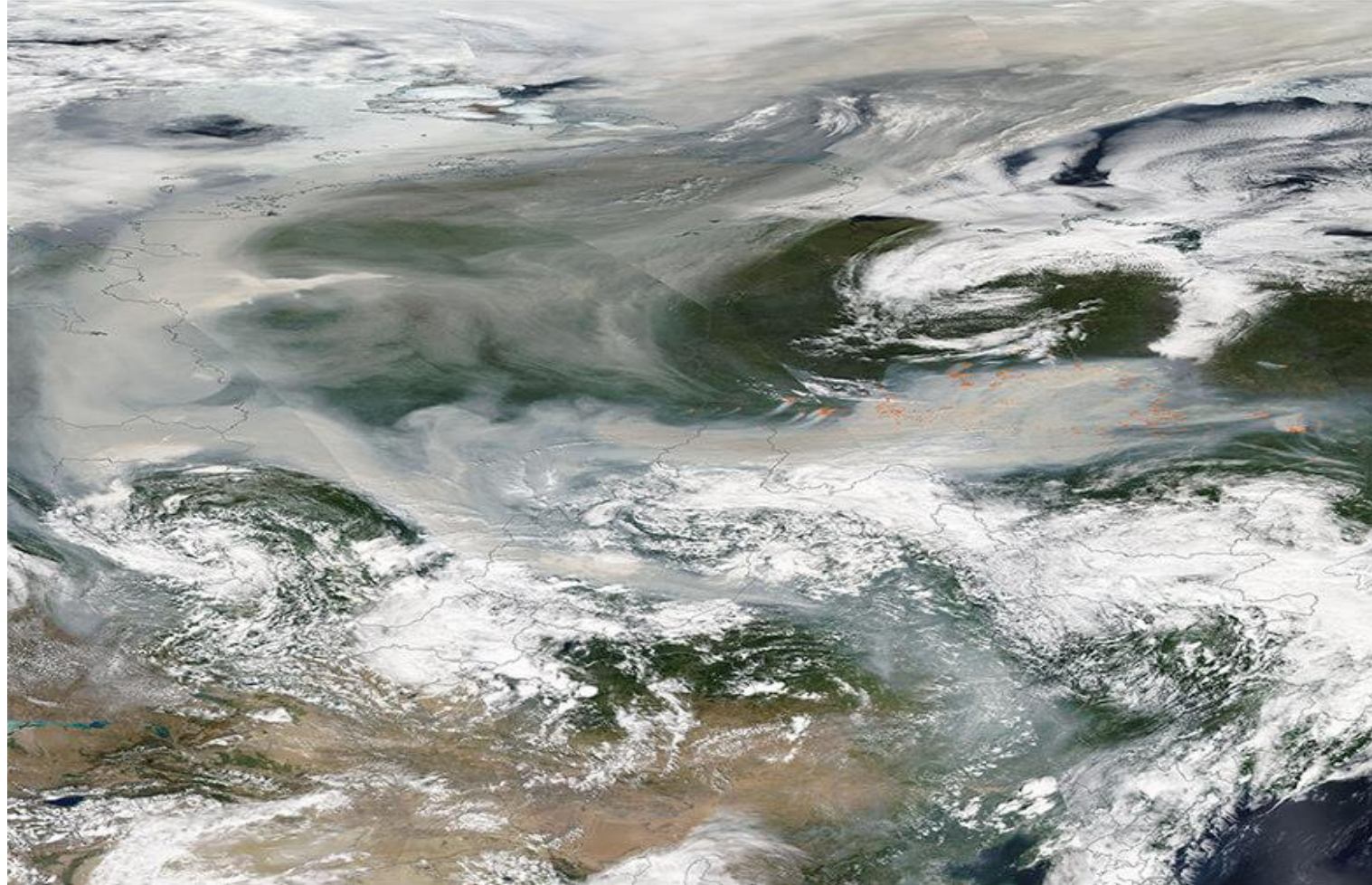
ロシア・21世紀最大の森林火災

- ロシアでは、燃えた森の面積は、日本国土の半分に匹敵し、21世紀最大の規模。
- 落雷による火災。
- PM_{2.5}は、国際基準の40倍で健康被害が続出。
永久凍土は、冬は-40～-50℃、夏は熱波の影響で、最高気温35℃。
- 大型野生動物の死骸は、見つからなかった。

火災最悪（サハ共和国）



米航空宇宙局（NASA）の画像



永久凍土の断面（メタン）



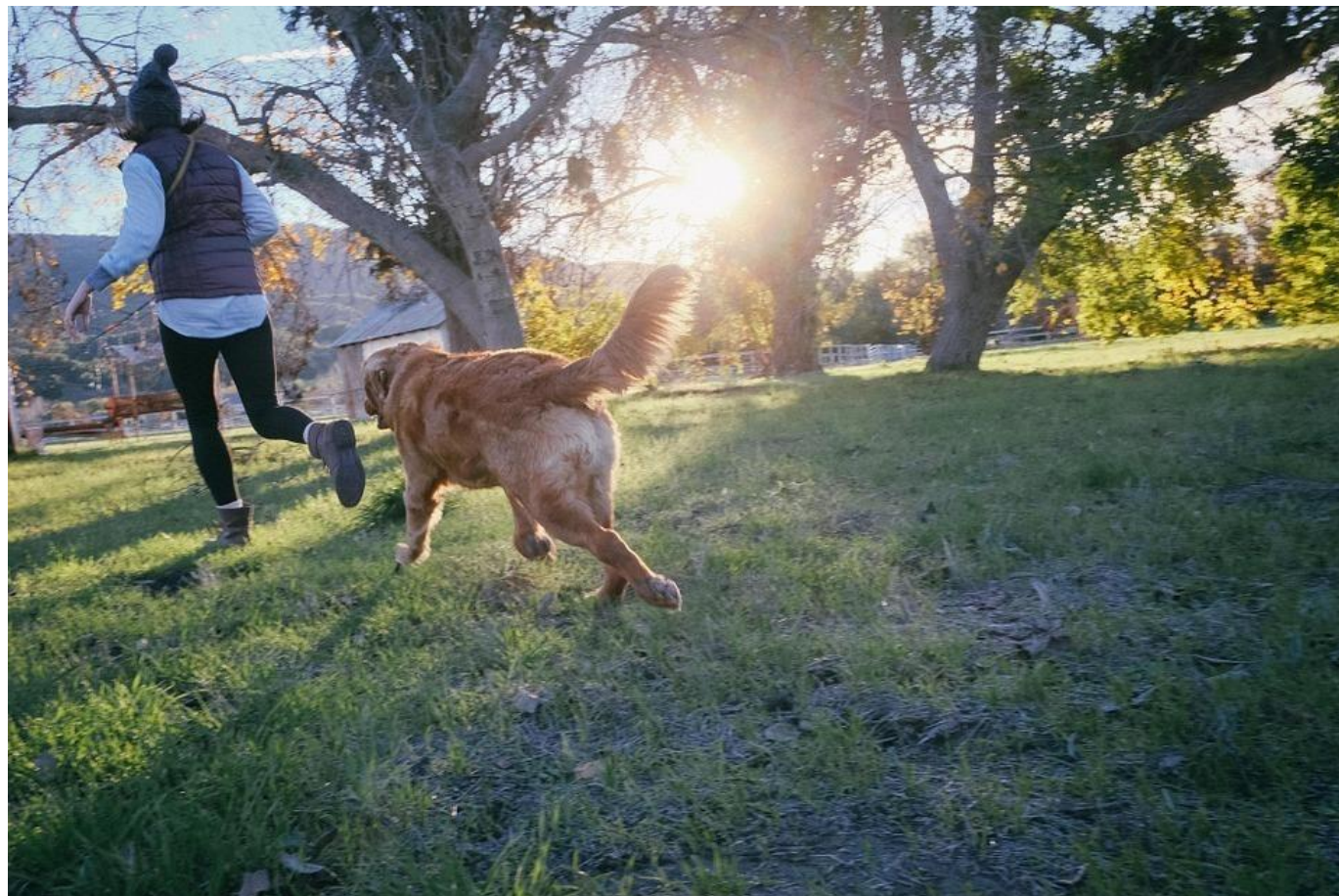
生息動物（ジャコウジカ・ヘラジカ・クズリ・ヒグマ）



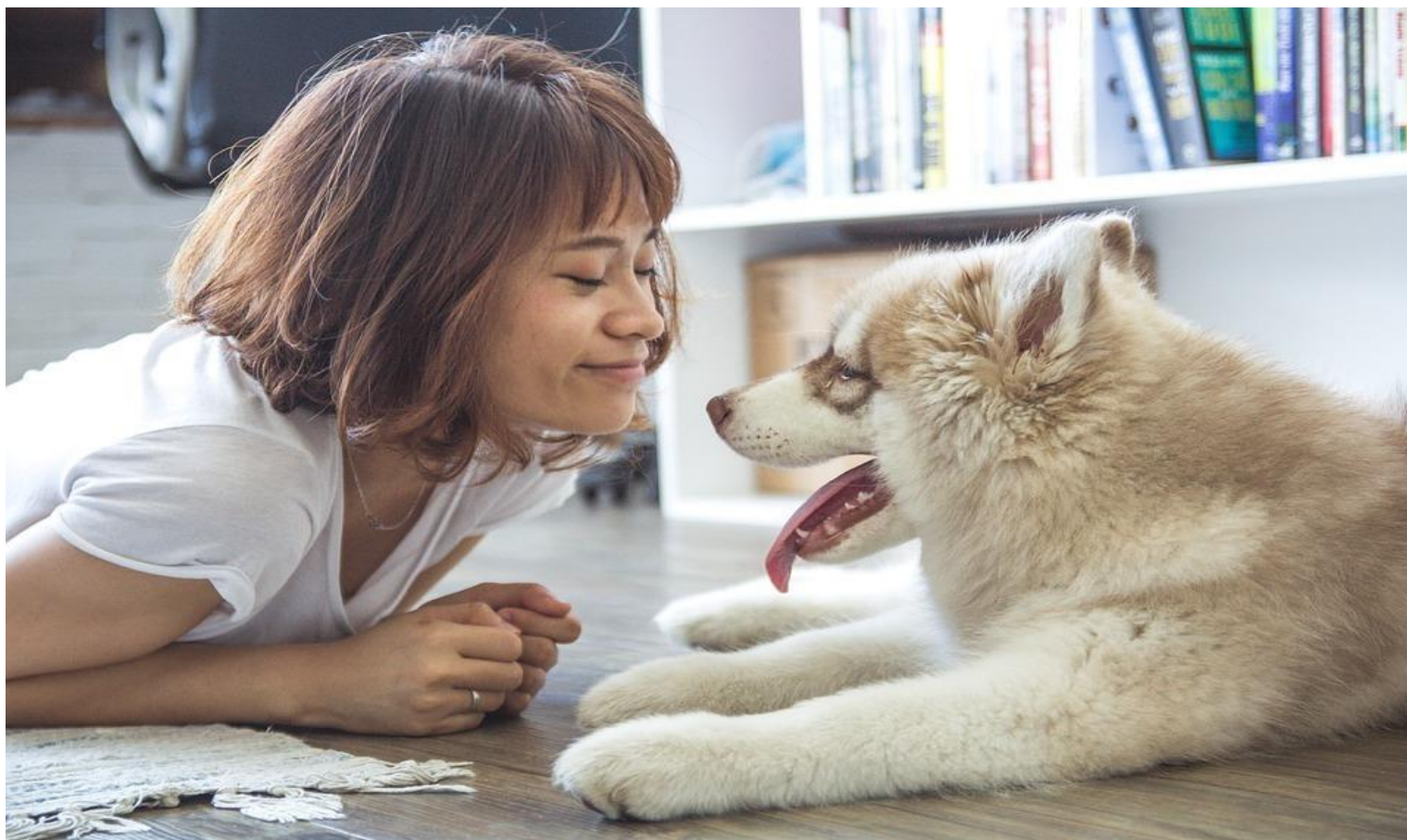
4. 人と動物の共生社会づくり

- 少子高齢化社会の中で、犬や猫、鳥、金魚等は家族の一員とし、伴侶として、重要な位置を占めている。
- 愛玩動物は、高齢者に取り、ともに老いていく仲間であり、子供にとっては、社会性を育むトレーナーでもあり、人の健康づくりや生活の質（QOL）の向上に貢献している。また、笑いや会話も増え、癒し効果やストレスの軽減が見られる。
- このように、医療・福祉・教育で活躍している。
- 一方、虐待、過剰飼育、遺棄等の問題もあり。
- 愛玩動物の重要性を理解し、飼育法を熟知し、登録や狂犬病ワクチン接種、ノミ・マダニも駆除や健康管理が大切。

ヒューマン・アニマル・ポンド



人と動物の絆



コンパニオンアニマル（伴侶動物）



コンパニオンアニマル（伴侶動物）



アニマルセラピー（人々の心を癒す）



5. 健康づくり

- WHO憲章によると「健康とは、病気でないとか、弱っていないということだけでなく、**肉体的にも、精神的にも、社会的にも**満たされた状態をいう」と定義。
- 健康診断データで、病気が見つかるケースや生活習慣を改善し、発症を防ぐことができます。
- これからの、健康づくりは、**家族や愛玩動物、環境**とのつながりを大事にしなければなりません。
- 私たちは、人だけで生きているのではなく、**健全な環境の中で、様々な動植物の中で健康を維持できている。**

健康習慣を身につけるために
できることから始めましょう!

おうち時間で始める「新・健康生活」6つのススメ



1

プラス10の 身体活動のススメ



適度な運動、毎日+10分の身体活動

移動時のはや歩き、料理や掃除、庭いじりなど、日常でのからだの動きを増やしましょう。

新

コロナ下での
ポイント

テレワークなどで外出機会が減り、身体活動量も減りがちなので、座っていても、できれば**30分ごとに3分程度**、少なくとも**1時間に5分程度**は、立ち上がってからだを動かしましょう。

2

おいしい バランスのススメ



適切な食生活で、からだの調子を整える

主食・主菜・副菜は健康な食事の第一歩。食事をおいしく、バランスよくとりましょう。

新

コロナ下での
ポイント

おうちで食事をする機会が増えたことをきっかけに、食事の内容を見直してみませんか。お弁当や中食を活用する際は、**主食・主菜・副菜を組み合わせ**てみましょう。

3

禁煙のススメ



喫煙習慣を見直す

喫煙や受動喫煙により、肺がんや心臓病、脳卒中、COPD（慢性閉塞性肺疾患）等にかかりやすくなります。

新

コロナ下での
ポイント

気になっていてもついつい先延ばしにしてしまう禁煙。**世の中の変化を禁煙のきっかけにしませんか。**

4

飲酒の知識のススメ



飲酒に伴うからだへの健康影響を知る

休肝日を設けるなどして、からだに負担をかけないようにしましょう。

新

コロナ下での
ポイント

お酒（アルコール）を分解する能力は人によって違います。飲めないのに無理して飲むことはやめましょう。外食が減りおうちでの食事が増えて、お酒を飲む機会が変化してきました。これをきっかけに、**お酒との付き合い方**を考えてみませんか。

5

質の良い睡眠のススメ



良い環境づくりで、質の良い睡眠を目指す

就寝前は明るい光を避けるなどして、睡眠の質を高めましょう。

新

コロナ下での
ポイント

おうち時間が増え、生活リズムが乱れがちです。**十分な睡眠時間**をとって、からだと心を健康に保ちましょう。

6

健診・検診のススメ

定期的にからだの状態を知り、病気につながるリスクを早期発見する

健診と検診を受けて、からだの状態を知ることが、健康づくりの入口です。

健康の保持増進

定期健康診断、特定健診など

病気の早期発見・早期治療

各種がん検診など



新

コロナ下での
ポイント

外出を控え、健診・検診の受診をためらう場面が増えると、今は健康であっても**早期には自覚症状がない**という病気が進行する場合があります。

コロナ下で受診を迷っている間も生活習慣病やがんは進行しています。あなたの命を守る貴重な機会を、どうか逃さないでください。

森林浴



森林浴

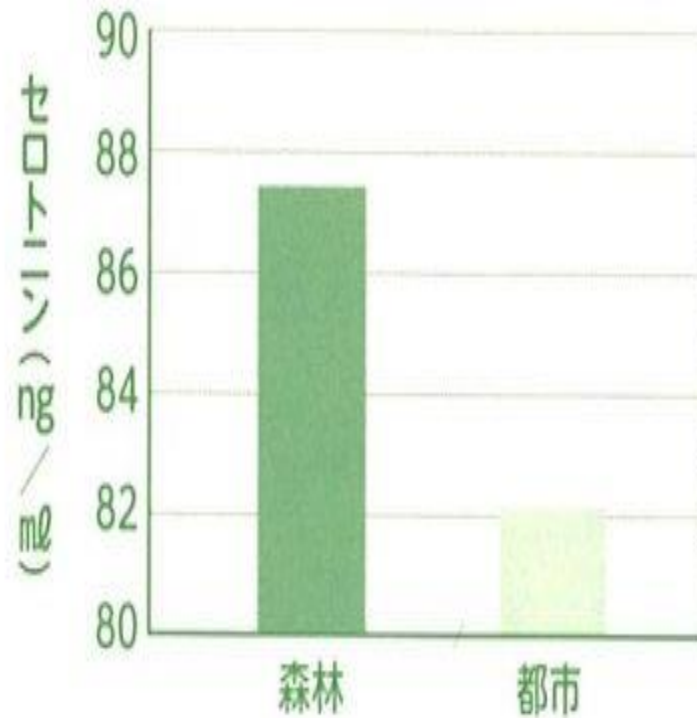


森林浴効果

- 脳の前頭葉の活動が沈静化（リラックス）
- 交感神経活動の抑制と副交感神経の昂進（リラックス）
- ストレスホルモン「コルチゾール」の濃度の低下
- ナチュラルキラー細胞の活性化

森林浴の効果（幸せホルモン）

【森林浴後に血中セロトニン濃度が上昇。うつ改善効果が期待できる】



1日4時間の森林浴は、対照実験としての都市部での散策と比較して血中セロトニン濃度を有意に上昇させ、森林浴による血中セロトニンの増加が明らかになった。

（出典：李卿ら、森林浴による血中セロトニン、うつ症状及び睡眠への影響、日本衛生学会雑誌、75 (S)、155、2020 及び李卿、令和元年度森林浴による健康増進等に関する調査研究報告書（公益財団法人車両競技公益資金記念財団助成研究）

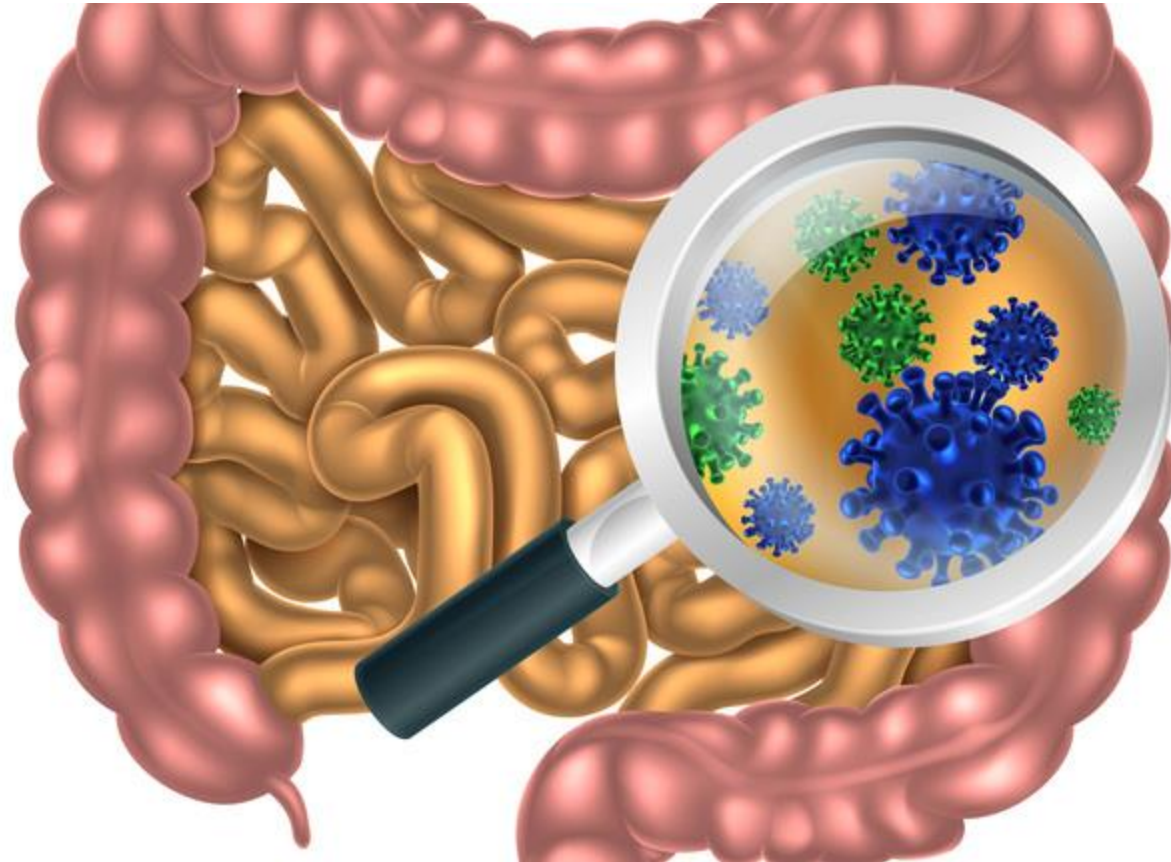
ワンヘルスの森



6. 環境と人と動物のより良き関係づくり

- 環境と人と動物の間には、様々な微生物が行き来しています。
- 人や動物に病気をもたらす微生物がいる一方、有益な微生物もいます。これら「善玉菌」は悪玉菌を抑え、腸内環境を整える働きがあります。
- この「善玉菌」は、「食」により体内に入ります。
- 例えば、米や野菜などを作るには、農地、太陽、水が必要です。
- 畜産物は、家畜の「いのち」から生まれます。家畜伝染病を予防し、安全な飼料を与え家畜の健康を保つことは、人の健康につながります。
- 「安心・安全」な食づくりには、直接、確認できる地元で生産することと「食育」の推進も不可欠です。

常在菌（善玉菌・悪玉菌・日和見菌）



善玉菌の働き

- 免疫効果向上
- 腸内環境を整える
- 高血圧の予防
- コレステロール値を下げる
- アレルギー症状の軽減
- 美肌になる

悪玉菌の働き

- 肌がある
- 免疫力が下がる
- ネガティブな気分になる
- 便秘が治りにくい
- 生活習慣病を引き起こしやすくなる
- 太りやすくなる

地産地消とは

「地域生産」＋「地域消費」

地域で生産された農林水産物を、その地域で消費する活動

地産地消のメリット

- ・ 費用や環境負荷を抑えられる
- ・ 新鮮な食材を購入できる
- ・ 地域の活性化につながる

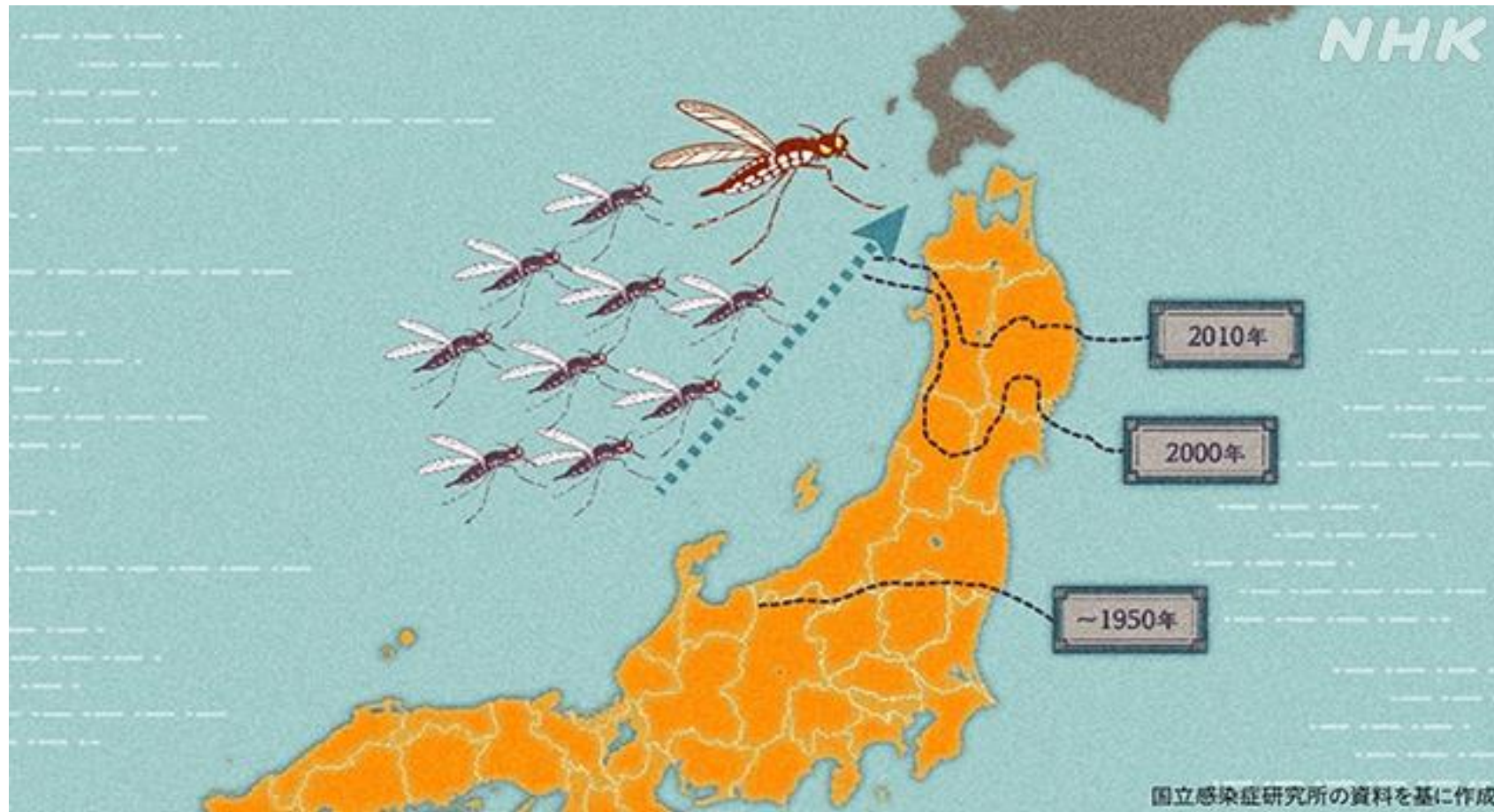
環境が破壊されると人と動物の健康被害につながります。

- 地球温暖化は、海面上昇や農作物が獲れず、強大化した台風や集中豪雨で、災害が発生し、人や動物の体にも影響しています。
- 気温があがることで熱中症や消化管系の病気にかかったりします。
- 気温の上昇により、蚊やネズミが増え、感染症のリスクが高くなります。
- 動植物の絶滅や分布の変化が起こります。
- 森林を開拓することは、温暖化を加速させることになります。
- 森林破壊は、奥地に生息する微生物と人とが遭遇する機会が増え、新たな感染症が発生する恐れにつながります。

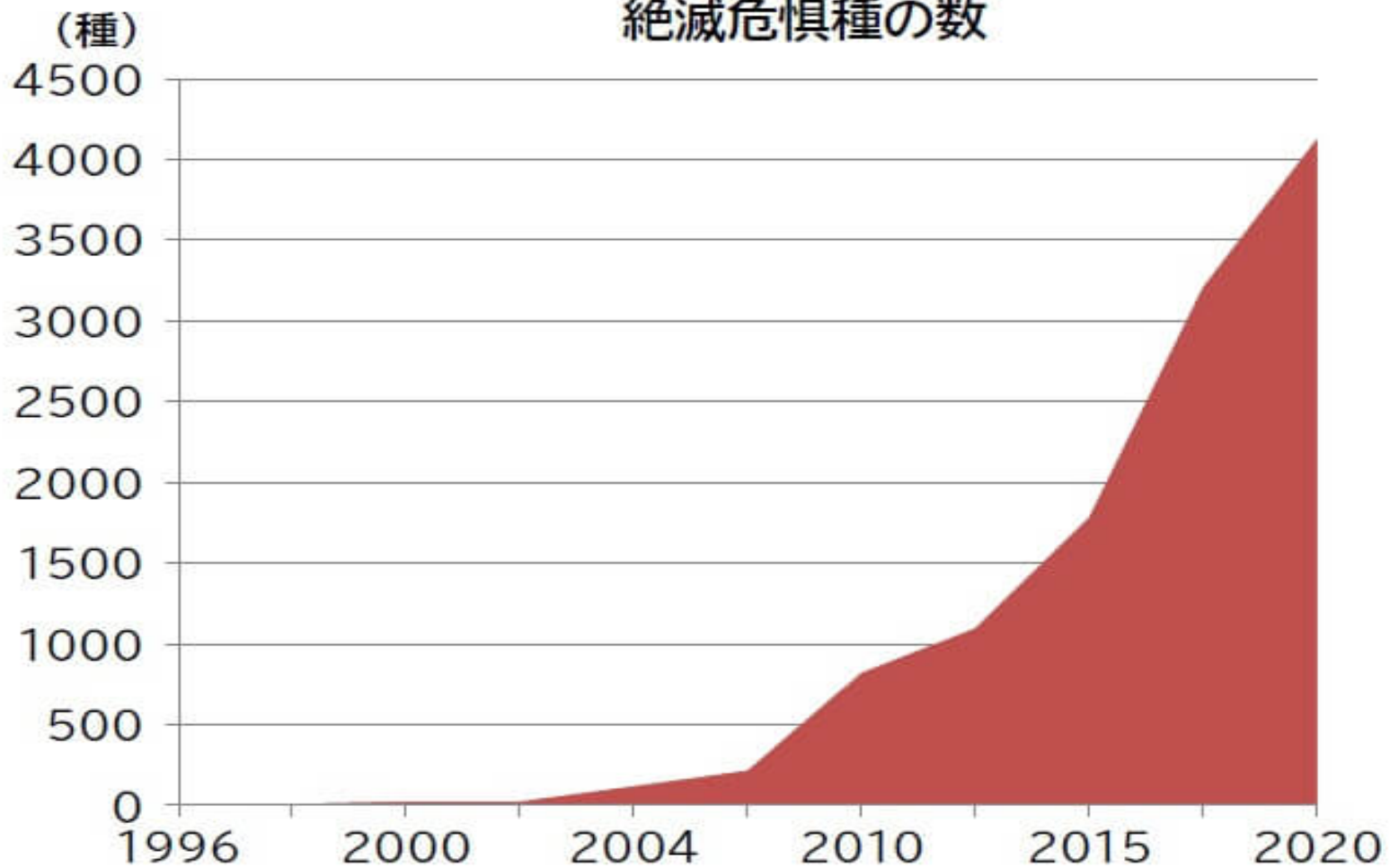
温暖化による蚊等による感染症の増大

- 温暖化による蚊・ネズミ等の増加。
- 蚊➡日本脳炎、ウエストナイル熱、デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス
- ノミ➡ペスト
- ハエ➡腸管出血性大腸菌感染症
- ダニ➡日本紅斑熱、ツツガムシ病、重症熱性血小板減少症症候群（SFTS）
- 水➡クリプトスポリジウム、レプトスピラ症
- 新たな感染症➡マラリヤ

蚊の生息域（北上）

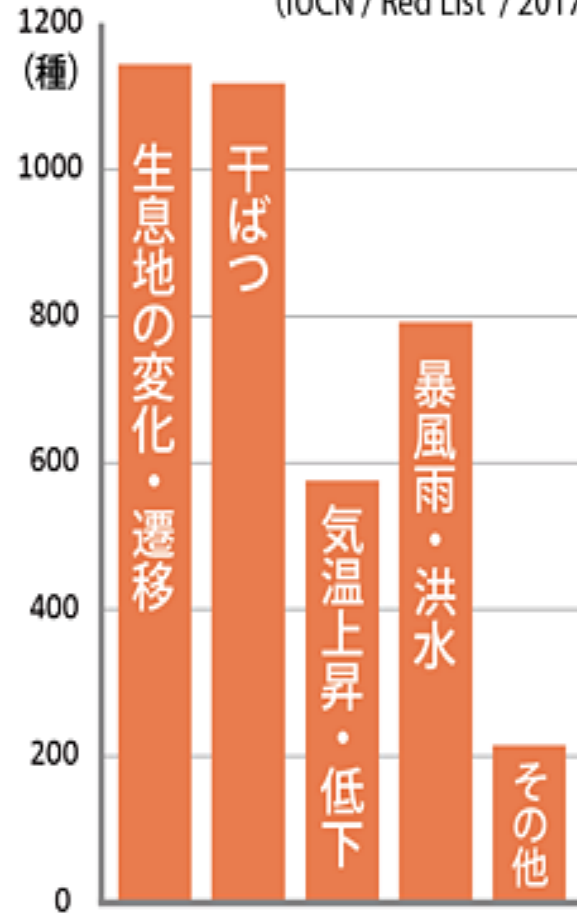


気候変動が絶滅危機の要因の1つとなっている
絶滅危惧種の数

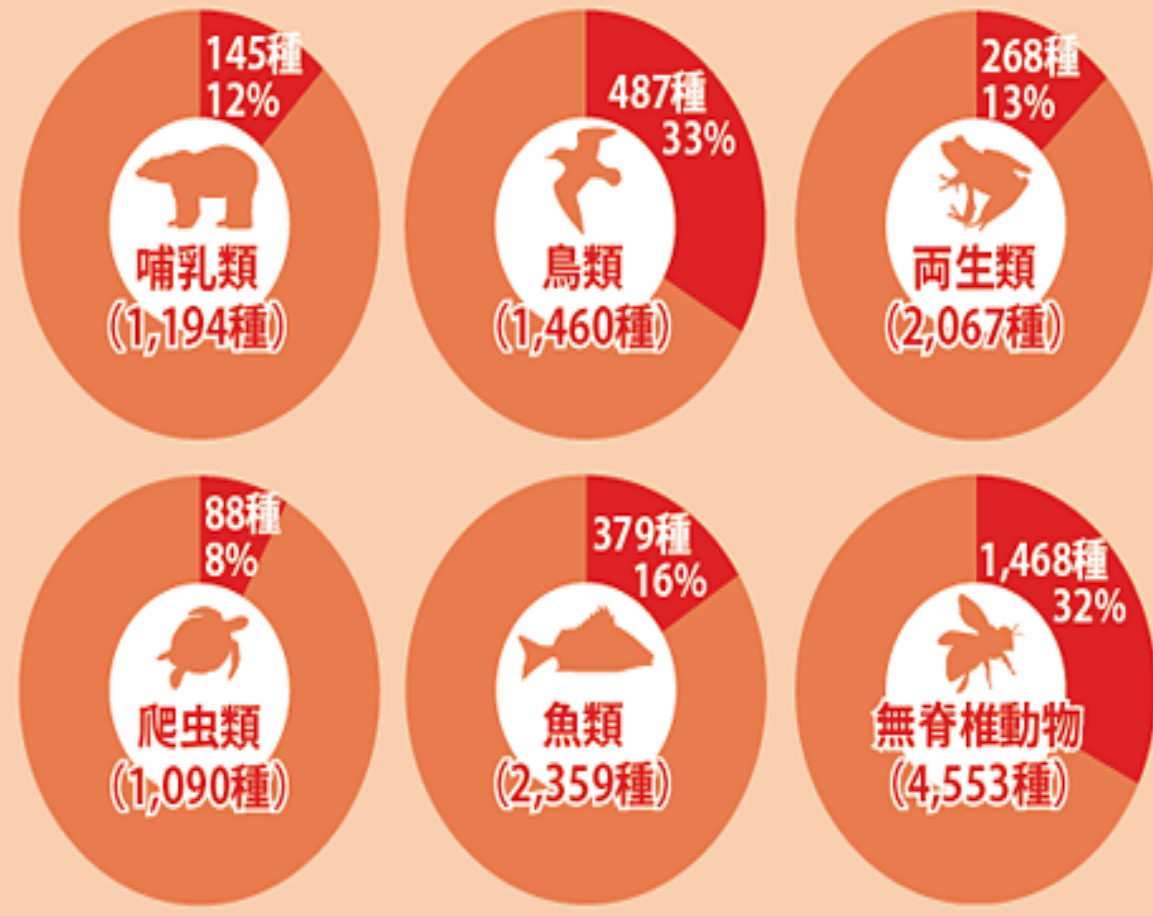


地球温暖化の影響と、それぞれの 影響を受ける絶滅危機種の種数

(IUCN / Red List / 2017)



各分類群の絶滅危機種（総数）のうち 温暖化の影響を受けている種の割合







© Jürgen Freund / WWF

イノシシ・シカ（平野の感想）

- 温暖化で、イノシシ・シカの自然淘汰が減少。被害が拡大傾向。
- 青森県でも生息。



東広島支部のワンヘルスの取り組み

- FM東広島（ラジオ）での啓発・普及

まずは、広く市民に「ワンヘルス」とは、せめて言葉だけでも。

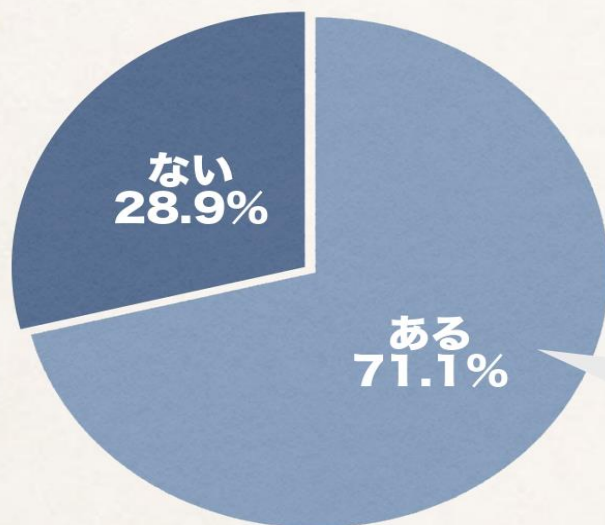
- 「ワンヘルスの森」、「ワンヘルスのたんぼ」 「ホームページ」、
- ワンヘルスの啓発チラシ
(東広島市教育委員会 指導課、生活環境部環境先進都市推進課、東広島支部管内での動物病院)

「FM東広島」の放送内容（音源）

- 人の健康、動物の健康、そして環境をひとつのものとして守っていかうという考えを「ワンヘルス」といいます。動物にとって暮らしやすい環境を守ることが、人にとっても健康で安全に暮らす環境を作ることにつながります。東広島獣医師会からのお知らせでした。
- 私たちの生活は便利で快適になった一方、環境破壊などを起こしています。人と動物の健康、環境保全、これを一体的に守る「ワンヘルス」の取り組みが、これからの鍵となります。みんなで、安全に暮らせる環境づくりをしていきましょう。東広島獣医師会からのお知らせでした。

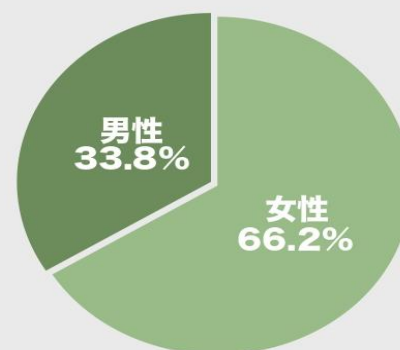
【参考】聴取者データ

FM東広島を聞いたことがありますか？

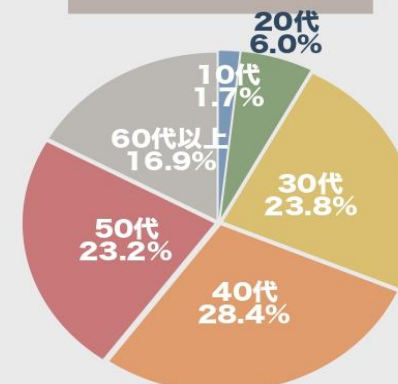


※調査はWEBサイト「東広島デジタル」でアンケートを実施。読者プレゼントの応募者が対象。有効回答数は349件。調査（募集）は2022年10月19日実施。

男女比率

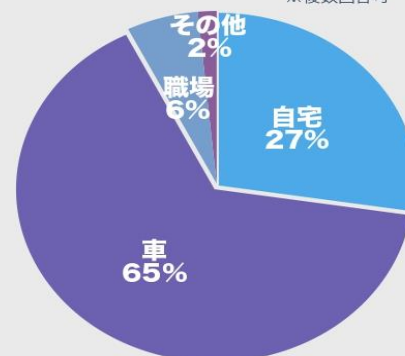


年代比率



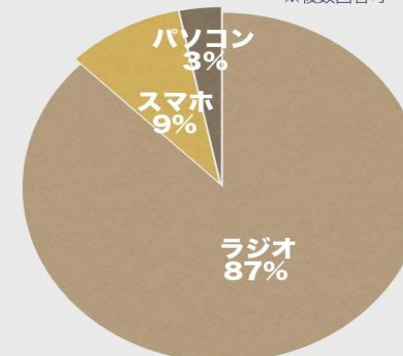
聴取場所

※複数回答可



聴取方法

※複数回答可



ワンヘルスの森



ワンヘルスのたんぼ



「環境直接払い」創設へ

- 「環境との調和」を基本理念
- 4月3日の衆院農業水産委員会で、環境負荷低減に取り組む農家を支援する、新たな直接払い制度を2027年を目標に導入。
- 地球温暖化等環境負荷低減が「待ったなしの重要政策課題とし」これをみどりの食料システム法に基づく仕組みに移行する。

チラシ（ワンヘルスとは！）の設置

- 東広島市環境生活先進都市推進課 → 設置
- 東広島市教育委員会指導課 → 設置
- 東広島市管内の動物病院 → 設置
- 東広島市保健医療課 → 検討中
- 地域振興部 地域づくり推進課 → 手続き中
- 東広島市管内 37か所の地域センター → 手続き中

啓発効果（ワンヘルス）

- FM東広島CM → まずまずの効果（71%の聴収率）
- ワンヘルスの田んぼ → 効果が薄い（近所の犬の散歩等）
- ワンヘルスの森 → まったく効果なし（問い合わせ1人）
- チラシ → 現時点では、効果がないが、今後、期待できる
- 引き続き継続してまいります。（令和9年ワンヘルスセンターができるまでは、啓発に専念）

今後の取り組み（考え方・方向性）

- ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的にも良好な状態（広い概念）

人だけでなく、動植物、コミュニティ、地球にとってのウェルビーイングととらえることにより、ワンヘルスとの協調性が強くなります。

- 人の健康は、動植物・環境と深く結びついている
- 生命全体の健康と幸福
- 社会、経済、環境の持続可能な発展に寄与
- ワンヘルスとウェルビーイングは密接に関連している。



Fukuoka Animal Welfare Office

アジア獣医師会連合 (FAVA) ワンヘルス 福岡オフィス 開所式



日本獣医師会から自由民主党ワンヘルス推進議員連盟 会長 林 芳正 様への要請

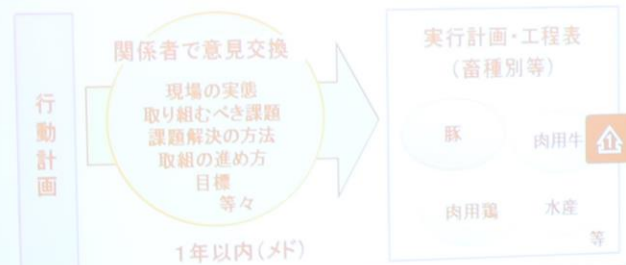
- 危機管理及びワンヘルスに関する施策を講じられたい。
- 愛玩動物・野生動物での感染症等の調査研究。
- 動物保健衛生所「ワンヘルスセンター」の設置。
- 国・都道府県による支援。
- マイクロチップ登録事業の適正な運用。
- 高度・専門的な獣医医療の整備。
- 産業動物診療獣医師・公務員獣医師の処遇改善。

人と動物の一つの衛生を目指すシンポジウム

— 人獣共通感染症と薬剤耐性菌 —

5. 行動計画を踏まえた今後の対応

- 「行動計画」を踏まえ、1年以内をメドに、関係者と意見交換を行い、畜種別等の取組を実際に進めていくための「実行計画と工程表」を検討し策定していく予定。
- 「実行計画と工程表」を踏まえ、特に抗菌性物質の適正使用について、関係者が連携して取り組み。



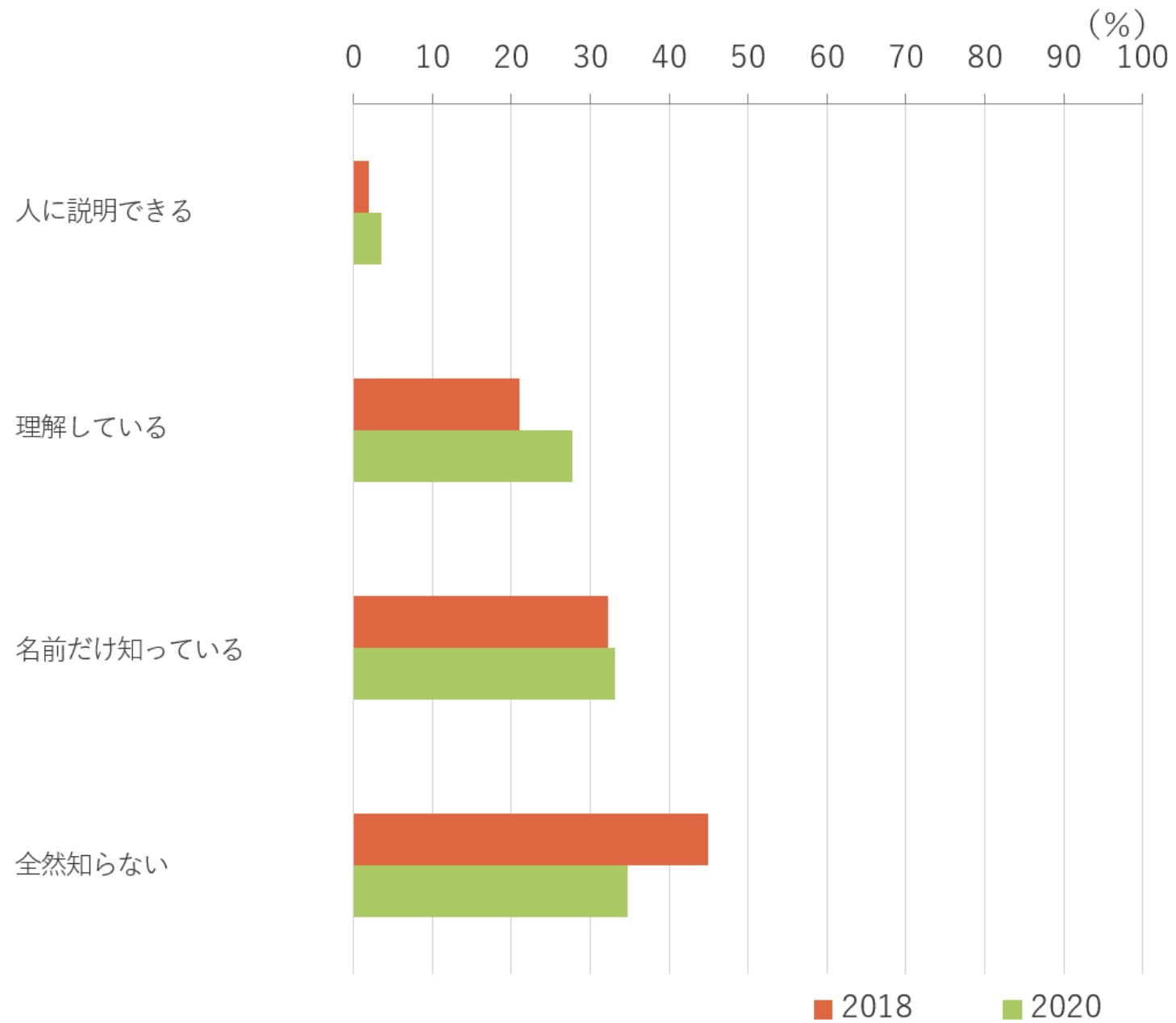
抗菌薬の適正使用の勧め



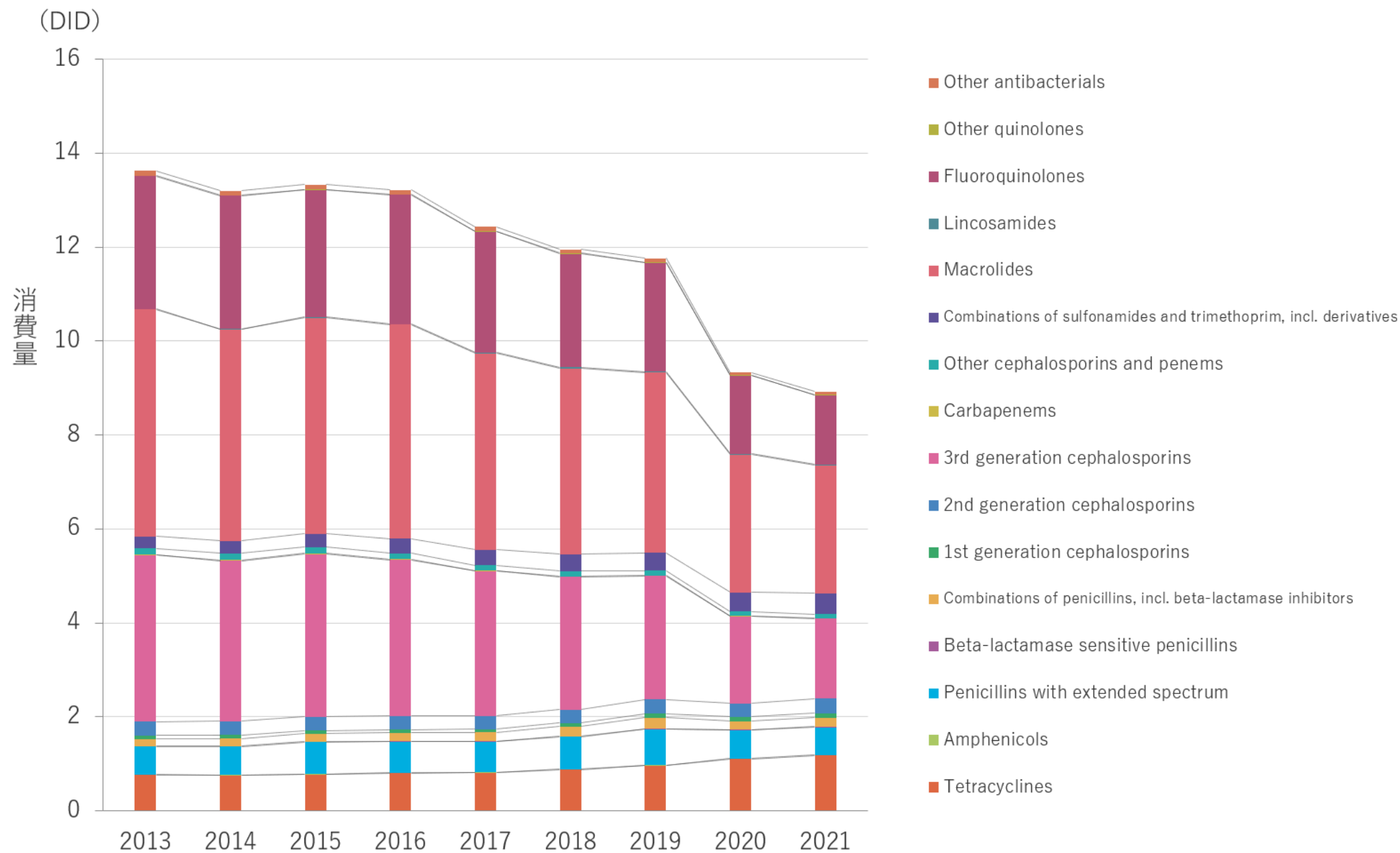
表 1. 伝播経路と動物由来感染症

伝播		具体例	動物由来感染症の例
直接伝播		咬まれる ひっかかれる 触れる : 糞便 : 飛沫・塵埃 : その他	狂犬病、カブノサイトファーガ・カニモルサス感染症、 パスツレラ症 猫ひっかき病 トキソプラズマ症、回虫症、エキノコックス症、 クリプトコッカス症、サルモネラ症 オウム病、コリネバクテリウム・ウルセランス感染症 皮膚糸状菌症、ブルセラ症
間接伝播	ベクター媒介	ダニ類 蚊 ノミ ハエ	クリミア・コンゴ出血熱、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、 つつが虫病、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 日本脳炎、ウエストナイル熱、デング熱、チクングニア 熱、シカウイルス感染症 ペスト 腸管出血性大腸菌感染症
	環境媒介	水 土壌	クリプトスポリジウム症、レプトスピラ症 炭疽、破傷風
	動物性食品媒介	肉 鶏卵 乳製品 魚介	腸管出血性大腸菌感染症、E型肝炎、カンピロバクター症、 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)、住肉胞子虫 症 サルモネラ症、 牛型結核、Q熱、ブルセラ症 アニサキス症、クドア症、ノロウイルス感染症

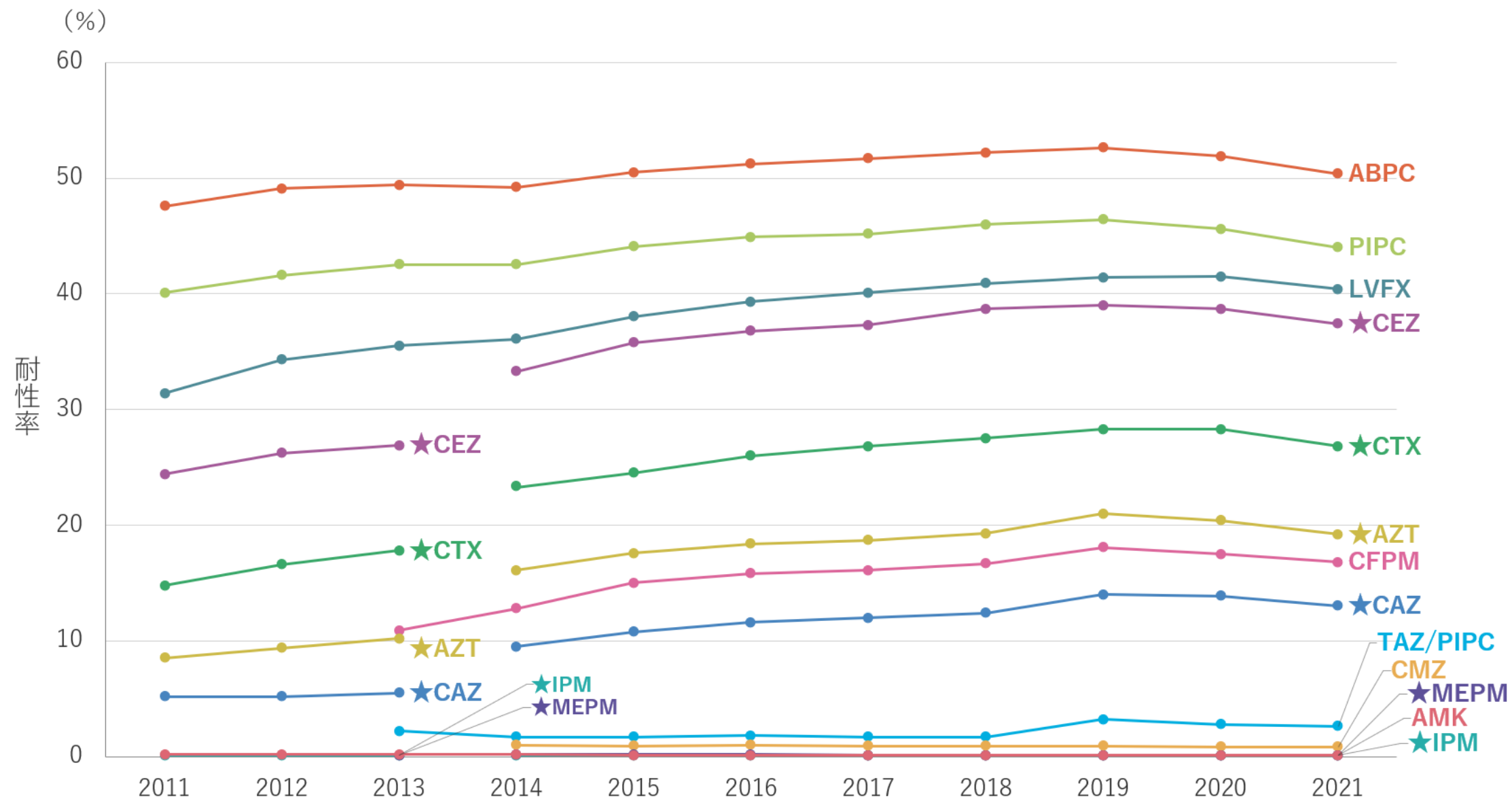
アクションプランの認知度



日本における販売量に基づいた経口抗菌薬の使用動向

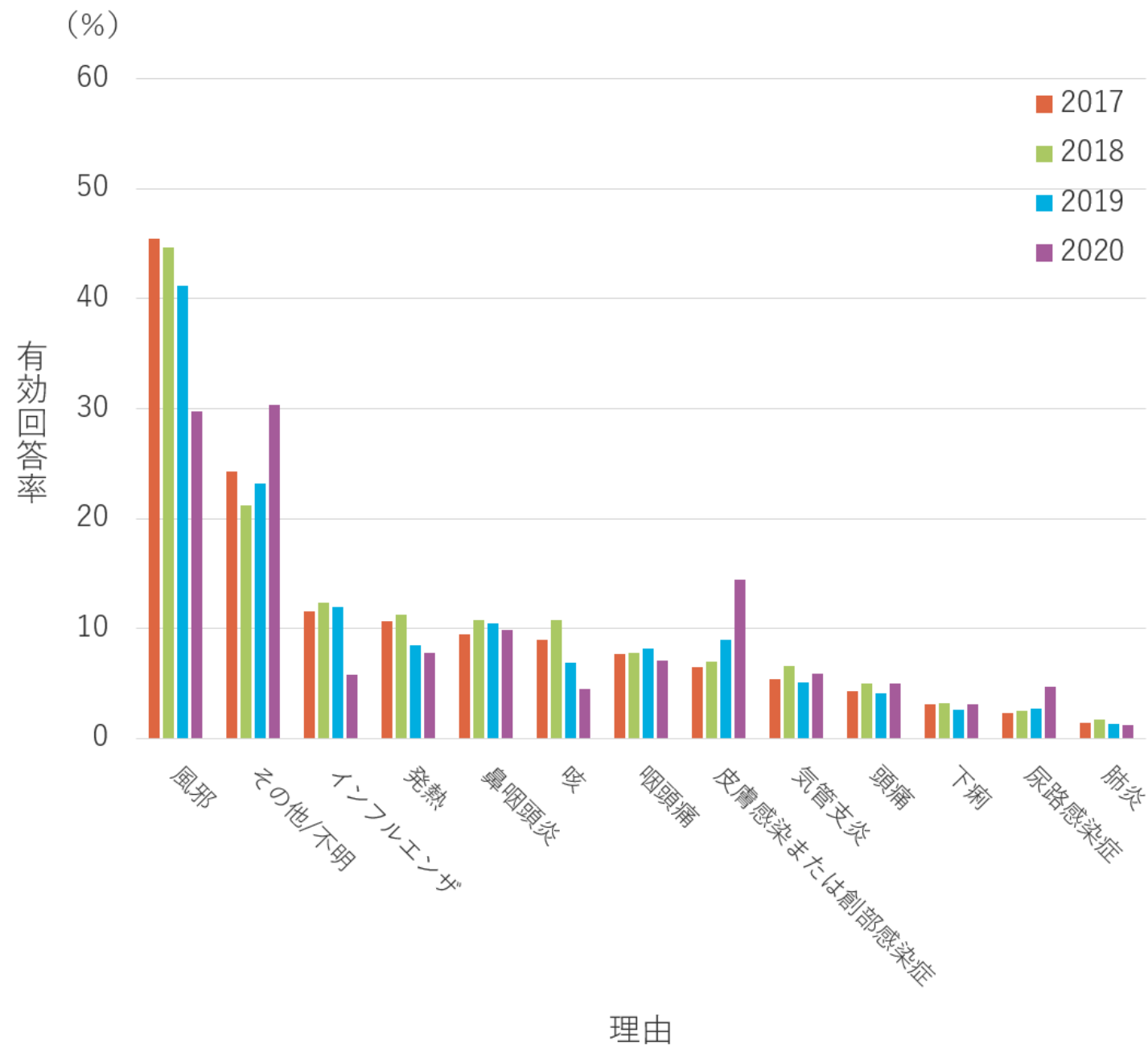


Escherichia coliの耐性率の推移

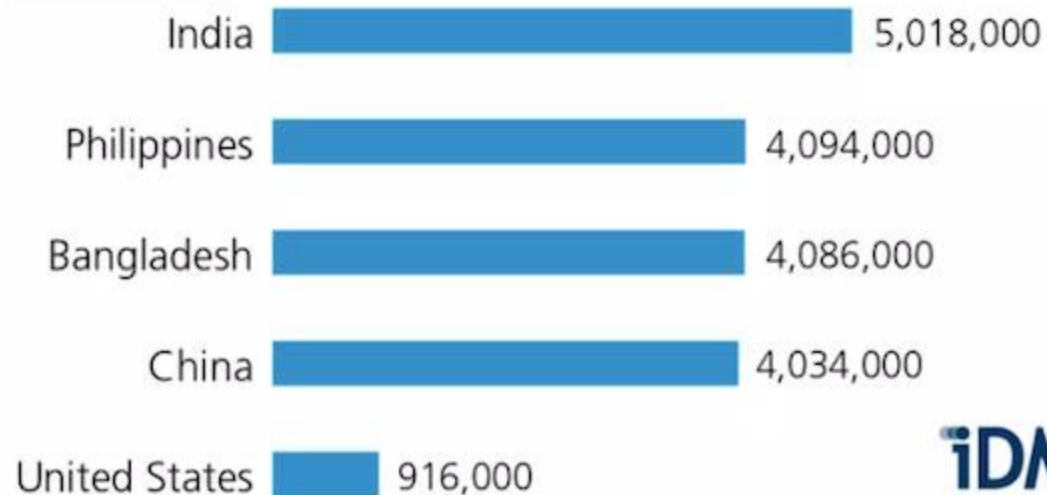


★印の薬剤は2014年に判定基準を変更

抗生物質を内服することになった理由



Five countries with the most new displacements by disasters in 2019



人獣共通感染症に関する関係省庁間の連携（ワンヘルス・アプローチ）

平 時 の 対 応	環境省 (主に環境、野生動物)	厚生労働省 (ヒト)	農林水産省 (主に畜産動物)
	鳥インフルエンザ（野鳥）調査	【発生状況・保有状況の把握】 - ヒトの疾病発生・動物の病原体保有の医師・獣医師からの届出（感染症法） - 厚労科研やAMED研究等による調査研究（人獣共通感染症含む）の実施	- 家畜・家きん疾病の発生状況の把握（家畜伝染病予防法） - 家畜疾病（人獣共通感染症含む）の研究の実施
	- 動物販売業者の飼養衛生管理 - 犬・猫のMC登録（動物愛護管理法） - 温暖化対策 - 野生動物の保護管理	【感染源対策】 - 感染源（ダニ・蚊・ネズミ等）の駆除・消毒等（感染症法） - 犬の狂犬病ワクチン接種や市町村への登録の義務化（狂犬病予防法） - と畜検査や食品衛生対策の実施（と畜場法等）	家畜・家きんの飼養衛生管理の推進（家畜伝染病予防法）
	- 販売業者への周知・情報提供 - 動物の所有者や一般への周知	【動物所有者や関係者への周知】 - HP、ポスター、シンポジウムの開催などを通じた国民や関係者に対する普及啓発 - 販売者等関係者への専門的なガイドラインの普及	畜産農家等関係者への周知・情報提供
		【輸入・検疫】 - ペット用サル、コウモリ、タヌキ、ハクビシン等の輸入禁止（感染症法） - 輸入動物の衛生証明書の確認（感染症法） - 輸出国のサル飼育施設の現地調査（感染症法）	- 犬等の輸出入検疫（狂犬病予防法） - 試験研究又は展示用サルの輸入検疫（感染症法） - 家畜・家きん・畜産物の輸出入検疫（家畜伝染病予防法）

緊急時の省庁間連携（例：省庁間連絡会議（高病原性鳥インフルエンザ等）の開催）



ワンヘルスの歩み

- 平成5年（1993年）に開催された世界獣医師会世界大会で採択された「人と動物の共通感染症の防疫推進や人と動物の絆を確立するとともに平和な社会発展と環境保全」に努める。
（ベルリン宣言）が端緒。
- 平成16年（2004年）ロックフェラー大学で開催された「ワンワールド・ワンヘルス」をテーマとするシンポジウム
- 平成24年（2012年）世界獣医師会と世界医師会が「ワンヘルス推進の覚書」を調印。
- 平成28年（2016年）北九州「第2回世界獣医師会・世界医師会“One Health”に関する国際会議」が開催。
医師と獣医師が協力関係を強化。
（福岡宣言）が採択。
- 令和4年（2022年）「アジアからのワンヘルスアプローチ」をテーマとして第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会」が開催。
「アジアワンヘルス福岡宣言2022」が採択。

ワンヘルスの取り組み

- 2020年11月

それまで 「ワンヘルス」を推進してきた、WHO（世界保健機関）、FAO（国連食糧農業機関）、OIE（国際獣疫事務局）に、新たにUNEP（国連環境計画）が参加。

- 従来の3機関では対応できていなかった、「環境」生態系の健康をを守る視点が強化された。

微生物は地球の掃除屋さん

- 食物連鎖と微生物
- 地球の生物はお互いに関係しあって生きている。すべての生物が微妙なバランスを保って生きている。
- 生物とこれを取り巻く環境がお互いに関係しあっているシステムを「生態系」と言われています。
- 微生物の役割は、「分解者」でゴミの処理です。最終的には、二酸化炭素と水に変わる。